神位が、至聖なる處女マリヤさんの胎中に人性と結合あそばされたるも父神と別れ又離れ給はざる眞理を御咄したとと合せて御覽になると、御聖神か主の御弟子方に豐かに盛んに大いに御降臨あそばされたることを明らかに御了解になるに助けやうと思はれます、そこで御聖神の御降臨の御目的は勿論主イイススハリストスの御降誕の御目的と御同樣でございまして、御聖神は一言で申さば、凡ての信者を主イイススハリストスの御言を守りて、父神の御喜となる樣に、神樣の御光榮を顯はす樣に、神靈も身體も聖潔になる樣に御佑助なさるのでございます、さりながら毫も人間の自由の意旨を御强制はあそばさらんのでございます、此のことは人間の自由のことゝ主イイススハリストスの御降誕のことを御咄申し上げた時にも精しく御咄致しましたが、御聖神が人間を御佑助あそばさることに付きまして、自由との關係に樣々の異說がございますする故此に一言したのです、今私か御咄せんとする御聖神の御降臨のことは新約聖書中の聖使徒行實にあることを御咄致すのでございます、此に使徒と云ふことを御咄して置うと思ひます、使徒とは文字に見える如く御使の方々のことですか、聖書を見まするに此使徒と申すことは神樣より直くに御遣はしになる方のことで、實に大任なのです主イイススハリストスが或時御祈禱の爲に山に御登りあそはされまして「終夜神に禱れり、夜の明くるに及びて、其門徒を召し、彼等の中より十二人を選びて、之を使徒と名づけたり」（ルカ福音五章十二節の中と十三節）と御示しある如く、大勢の中より其大任に堪へる方々を御撰定あそばされたのでございます、そうして後に主イイススハリストスは父神に御禱りの時に「爾か我を世に遣しゝ如く我も彼等を世に遣せり」と御仰ありました、御復活の後には「イイスス復彼等に謂へり爾等に平安、父か我を遣しゝ如く我も爾等を遣はす」（イオアン福音十七章十八節同二十章二十一節）と御仰ありて、全世界に福音を傳ふて地上に天國を建設すべき大命を御授けあそばされたる方々のことでございます、此の方々が御聖神の御鴻恩を充分に御領けなされて福音を御傳道なされたる歷史は新約聖書中の歷史なる一部をなして居るのでございます、そこでその聖使徒行實に依りて見まするとイイススハリストス御昇天後十日目に丁度イウデヤの大祭日に當りまして、其時に十二使徒方と其他男女の御弟子方とて百二十人集まりなされて心も思念も一つになりて舊約の御聖禮を御守りあつて熱心に祈禱なされてありましたが、朝の第九時に忽ち天より聲ありて迅しき風の樣な音か聞えると思ふて居る中に、其家に御聖神が超自然の樣子の充滿にて充滿なされたのでございました、此の至大聖事は聖使徒行實一章十三節より二章四節迄に見えてあります、此の奇妙なる聖事は素より私共の知慧にて云ひ顯はすことはできませんが、先に主イイススハリストスの御洗禮の時に、天が開け、御聖神か鴿の形のさまに顯はれ給ふたることを御咄し申し上げた時にも、其光景は人間の智慧にて云ひ顯はすことができんと云ふことを申し上げましたか、此にも同じく百二十人御集まりありし御弟子方の居らした、此の家はさも天と同じく

神様の寶坐に均しく、萬々の天使が至聖三者を讃榮し奉る所と同樣になつたので、此には無論一切の知識の暗も、私慾の臭氣も、世俗の惡習も、不淨不潔の情慾の意味も、頑迷の石情も、凡て魔鬼に屬する夜行は悉く飛去て、惟聖と義と愛と潔淨と平和と眞理と光明のみでございました、實に地か天と變じた樣でして、そうして主イイススハリストスと一心となり、一神とならんとする所で、此所ば今將に直ぐに永遠に天に於て主イイススハリストスと共に王たらんとする義子方か生れんとする神聖なる產屋となつたので、此に於て天より、上よりの眞正なる永遠の生命を生み給ふ御聖神か超自然に此に充滿なされたのでございます、そうして父神の御喜なる光れる顏ばせの前に、御子の完全の御喜の前に當るべき所の人々を、實に屬神的に生み給ふ所の御聖神の御聖能か顯れたのでございまして、とても形容もできん神妙なる實體の充滿でありました、尙又其中に「岐れたる舌火の如き者か彼等に現れて各人に止れり」(聖使徒行實二章十三節)とありまするか、此の至大なる奇跡は、一、此の室は神水に充滿する所となりて此に居る方々は洗禮を受て更生したる確證の表現です、二、忽ちとは主の御公約ありし上より賜はるる大能力か使徒方の爲に實に不意に異樣に顯はれしことで、三、迅しき風の如きは、御聖神の至大なる御聖能の顯はれて一切の不眞理不淨の迷雲を去り給ふ表現で、四、火の舌の各人に止まりしは、此に居りし悉くの人々は皆御聖神を受たる表はれである斗りでなく、御聖神を受し方の舌「言語」は御聖神か御用ひあそばさること、、全く御聖神か此の方々の言語を主とり給ふことや、特に聖使徒方の言語は火の如く燃て凡の不義と不淨と聖使徒方の敎ふる御言に敵するものを悉く燒く如くに之を滅し給ふ現れでございました、無論此の時に御聖神の御聖能か此の御方々の神靈と身體とに見えずして活動なされしことは如何斗りか神妙で、宏大で、實體的で、深奥でありしか何者も窺ひ知ることができんので、惟神樣より此を受し人々に於きましてのみ御感得あるのです、ある聖人は、聖人方が御聖神と體合なさる樣子はとても詞にて顯はされんであるが、併し凡て其現はれは公明で、神聖で、潔淨で、聖愛であるとの意味を御示しありました、實に此の時の御樣子はなんとも云はれん聖妙の樣子でございました、此皆主イイススハリストスが御昇天の時に「爾等日久しからずして聖神に依りて洗を受けん」(聖使徒行實一章五節の中)と仰あつた如く、此で全く御弟子方は更生なされたのでございます、聖書に「彼は我等が行ひし所の義の功に由るに非ず、乃已の慈憐に由りて、重生の洗及ひ聖神の復新を以て、我等を救へり、聖神は即神之をイイススハリストス我等の救主に由りて豐に我等に注げり、我等が彼の恩寵を以て義とせられて望に循ひて、永遠の生命の嗣と爲らん爲なり」(ティト書三章五節より七節)「是の故に人若しハリストスに在らば、新なる受造物なり舊きは逝れり、視よ、一切新になれり」(コリンフ後書五章十七節)「蓋我等は彼の造りし者にしてハリストスイイススに在りて善き功の爲に造られたり即神か我等の行はん爲に預め備へし所なり」(エフエス書二章十節)と御明示の如くで、此に於きまして、

殆んど天性の如くになつて居つた人性にある奇怪なる混せ者を悉く其影も跡も臭氣もなく滅し給ふたので、其の神化したる聖化したる方々はアタムの無罪の時よりも、ずーうと高尚なる人性となつたのでございます、そうして此方々は斯くも盛大なる實體の眞の光たる御聖神の神性の神火にて聖化せられて「神は我等に其恩寵を增加して凡の智慧と知識とを賜へり」（エフエス書一章八節）と御明言ある通り、此より常に其智慧も、心情も、能力も主イイススハリストスの至聖なる御聖性と密々體合なされて、實に主と一神一體となられたのでございまして、此時より使徒方の知識は、充滿にして實體たる知識で居らつしやる所の御聖神の御神識と合し、其衷心と意力も亦同じく充せ給はぬ所もなき眞正の生命たる御聖神と合せし者となられし故に、神聖なる深奥の御聖旨も此の方々には萬民の救に必要丈は悉く明白になられ、世の終り迄のことも、それ迄の教會のことも其後迄も、無論惡敵なる魔鬼の詐謀も計畧も悉く明らかに御明識あつたのでございます、此の方々は常に完全なる道德を以て萬世に光り、完全なる天の神聖なる歡喜を以て常に喜び、神聖なる潔淨の聖愛が全神全靈全身に滿ち溢れて居られたのでございました、併しながら毎度御咄する樣ですが斯かる人性の高點に達しましても人性の自由は益々發展する斗りであるので、此の樣なる神聖の自由こそ修德致し度き者で、此ぞ神樣に肖たる道德でございます

㊂地上に天國が再建したり○此の時に始て主イイススハリストスが御傳へあそばされたる福音の眞理が輝くべき所、主が十字架の慘死を以て御開きあそばされたる天國が全く此の地上に堅立したのでございます、無論此の天國は彼のアタムの地堂よりは、はるかに立派で、高尚で、神聖でございまして全惡魔の如何なる手段も方法も、毛程も之を動かすことができんのでございます。此の時に御聖神が御弟子方に御降臨あそばさると直くに御聖神の大能に依りまして、各國の方言を自由に御咄なされたることは尤特別なる顯はれで此とき迄になきことであつたので、御聖神の充滿の顯著なる現れでございました、實に此の岐れたる舌の如き火の現はれは、聖使徒方が此より全世界に行きて眞理福音の光りと、神聖なる潔淨の聖愛とを以て萬民に御傳道なされて全世界を聖化する働をなさるべき御聖職を受られたる確證でございました、直く此の日に聖使徒方の福音の傳道に依りまして三千人の兄弟が洗禮を受て教會に加はられたのです、さて御聖神の御聖能に依りまして各國の方言を御弟子方が直ぐ御咄になりしことは、誠に至大なる御恩寵でございましたが、全體人間の言語は奇妙なる賜で、神妙不可思議なる有智的自由器具としても申すべき者でせう、神樣は智慧と自由ある神靈、又自由の言語ある神靈を御造りあそばされたので、神靈より智慧と自由をとることができんと同じく神靈より言語をとられんので、言語は智慧とも心情とも離れんので、智慧も心情も言語なる奧妙の作用で發現するのでございます、然るに萬國萬民か一の血より獨一の神樣に造られ、尙萬世の萬國の萬民は確かに大切なることに至る

と同情で、唯言語が更に通せん所の不同一となりてあるのは、實に奇怪千萬でありません か、さも言語の不通は同胞兄弟を分ける大川が鐵壁の樣になりてあります、或は半身不隨の病の樣に全人間の大患でございませう、私共萬國同情の人間でありながら、外國の人々の御咄を伺ふとさつぱり解りませんでせう、向ふても亦同樣なのですが、御互に其言語にはそれ々々深き意義かあることも明白でございまして、それは外國語を學ばれた方々は直ぐ御存知のことでございませう、此も直ぐ此で御了解でせうイウデア國でイイスと云ふ詞は、日本の詞に譯すると世を救ふ者と申すことでございます、ハリストスとは日本の詞にては膏をつけらるゝ者と云ふ樣に、同一の御方を國に依りて別々に名づくるので、そうして發音と音響は別でも、意義は同一なのでございます、なぜ此の樣に同一の物に對して國々に依りて詞がかはるのか此をたとへて見ませう、此に二人の兄弟がありましたか、兄の方は兩親のことをふぼとのみ覺えてゐて、弟の方ではちゝはゝと斗り知りてゐて、此の二人か遠くの國に分れて百年も二百年も過て其子孫か逢ひました時に、兄の子孫か私共のふぼがと申したならば、其弟の子孫はふぼとは何のことですかさつぱり解りませんと云ひませう、又弟の子孫は私共のちゝはゝと申したなら兄の子孫は、ちゝはゝとは何のことですかさつぱり解りませんと申すでせう、さらばこう段々考ふる時には、言語も大昔は同一であつたと申すことは明らかに御解りのことゝ思はれます、聖書に、「全地は一の言語一つの音のみなりき」（創世記十一章一節）と御明示ある通り當時洪水後の新世界の全人間は一家一族の樣でございましたが、段々人間が多くなりまして、全世界に國々を建設致さんければならんのは、素より神樣の御聖旨でございました、然るに其時の人々の中に神樣の斯かる尊ふとき御聖旨があつて人々が四方に行くべきことを悟らんで、却つて又洪水の憂あらんとの不信よりの恐れと、聖書に見える如く、「又曰けるはいざ邑と塔とを建て其塔の頂を天にいたらしめん斯くして我等名を揚て全地の表面に散ることを免れん」（創世記十一章四節）と申して全く神樣の御聖旨に背き、無智なる驕慢の働を顯はしたのでございます、此の不法の企は聖書を見ますると果して惡しき人々の子孫の考へでございまして自ら其驕慢を悟らんで却つて全族を自分の權下に置かんとする時に、神樣は深き御憐憫を以て、此の人々の無智なる驕暴の企を御破りあそばされて、人間は全地球に散居して各々其れ々々國家を建設すべき御聖旨を顯はし給ふ爲に、言語が相通せぬ樣になされたのでございます、此が言語の國々に依りて異なる樣になつたる根原でございました、併しながら此の時に新しき詞を御造くりあそばされたのではございません、惟意旨や思想が紊亂したので、夫と同時に言語の枝葉が四分に分裂する始をなしたのでございます、斯く言語不通の原は特に人間の罪惡を御とめあそばさる時に始まつたので、今に至りては段々語學が盛んになりまして各國相通ずる樣に運んで居ります、どうもいろ〳〵の交通機關が發展して愈々萬里面談の盛代が近くなるも、互に

交誼を厚ふして同盟どころでなく屬神的兄弟として、神聖なる快樂幸福を共にすることが益々近くなるも、此の言語の通ぜんのは如何に大なる妨であるか知れんでせう、然らば今申し上げた通りで、もと言語の通ぜぬ樣になりましたことは、神樣は大いに深き御憐憫を以て人間の罪惡の增長と不幸となるのを、毫も人間の自由を害さぬ樣に御防ぎ下されたることの一つでございますから、今此人間の大患が全癒したる時に、御聖神の大いなる御鴻恩に依りて其罪惡の根原迄盡く癒されて以て萬國萬民が悉く、獨一の神樣の御家族となりて完全の萬福と歡喜とを得べき初めの時に、此の方々の良心も心情も天の如くに廣く智慧は太陽よりも明らかになりて主イエスハリストスと一神一靈となつた時に、此の聖人方が直ぐ萬國の詞の意義を御了解になりて此を自由に御喋なさる樣に御聖神が御開導あそばされたる奇跡は人間が深く感謝すべきのみでございませう、尙此の至大奇跡は後來世界萬國の萬民は一心一意となりて獨一無二の至聖三者を讃榮し奉るべき前證でございます、彼の大昔大洪水の後全世界が又再度驕慢なる罪惡を恣にせんとする時に、言語の淆れを以て其罪惡を奧妙に御止めあそばされたる御聖神は、主イエスハリストスが十字架の死と光榮の御復活と御昇天とを以て全人間の罪惡の大洪水を止め給ふて、此より永遠に萬民が神樣の神聖なる御家族となりて、完美の道德的一家となる時に、萬國の言語を以て此の一堂にて自由に、獨一の父神を讃榮し奉る樣に御開導あそばされたのでございます、さらば此の善美なる神聖の奇跡は如何に人間の爲に至大なる歡喜でございませうか、如何に人間の爲に至高なる幸福でせうか、斯く凡てに於きまして實に天にも地にも神樣は永遠に讃榮せらるべきでございます、そうして此の各國の言語を自由に御喋なさることの恩寵は勿論此の時斗りでなく、此の方々は天國の福音を萬民に御傳へなさるが爲に萬國に行るるのでございますから、直ぐどこの國に御出になりても言語に御不自由なく御傳敎なされたのでございました、特に又十二使徒方は大抵學識の少なき方々でした、それも聖書に明らかに見えてあります、其時分のイウデヤの宗敎の頭領方は、聖使徒方の大なる說敎と大奇跡を視まして「其無學にして賤しき者なるを察して奇めり」（聖使徒行實四章十三節の中）とある通りであつたのですが、然るに此の方は世界的至大の天職を受て此より其大任を盡さんとする時で、如何なる大學士も大博士も何人をも此の方々の御弟子となり子供となるべき時でございますから、御聖神は大に深く盛んに豐かに御佑助あそばされたのでございます、そうして聖使徒方は屬神的知識の豐盛のみでなく、神聖なる完美の道德のみでなく、實に神靈上の大權能と宗敎上の至大權を有して居らしたのでございます、其現れの一として一言を以て直く不敬虔の詐僞を罰し、一言を以て惡魔を追い給たることもあれば、其他神靈界に於ける特權が聖使徒方に澤山顯はれてございました、又其御熱心なる活動は言語を以て顯はされん程宏大でした、此皆主イエスハリストスが全能の神樣として、又永遠の天の大王として其至大權能に依

りまして、天より父神より御聖神の大なる御聖能を豐かに盛んに御遣はしあそばされたのでございます、尚又此のことは獨り此の時斗りではございません先にも申し上げた通りで教會歴史が明證する如く、御聖神の御鴻恩に依りましてまるで變化なされたる方々は、幾千萬あるか知らんので、段々御咄した如く主イエスハリストスの福音の御教は咄てなく實力て、理論でなく生命であるので、此よりは獨り此の御弟子方が斯く立派に聖人となられた斗りでなく、昨日迄ハリストス教の敵となりてゐた人でも一度ハリストス教の眞理を伺ふて此を智慧と良心と意念とに納むる時には忽ち變化して聖德の人々となられた方は幾百千あるか解らん程大多數でした、其上にもです極惡大罪に沈溺して將に亡びんとする人々や、不潔不淨の慾海に沈みつゝある方々でも、主イエスハリストスの光明聖愛の福音を伺ふて御聖神の御聖佑に依りて、痛悔の熱涙を衷心より流して、天の父神の御憐憫の下に、主イエスハリストスの十字架の下に來りて、聖人義人となられたる信男信女方は幾千萬あるか知れん程澤山でございます、此皆正教會の聖人の傳に明證してあるとです○諸君よ此に於てハリストス正教會は眞の神様が人間を御救ひあそばさる爲に、御開設あそばされたる所の全人間の教會であることが明らかでせう、此れぞ眞正なる宗教であると申すとも明白でせう、此の教會に於て人間のほんとの幸福、ほんとの快樂、ほんとの歡喜、完全の滿足を得らるゝので、此は皆悉く眞の神機は御設立あそばされて、此にそれを全備し給ふたのでございます、此に於きまして、凡ての罪惡に全く勝つことも、完全の道德を修むることも、惡魔どもを足下に踐み倒すこともできるのでございます、此の教會にて、學者も不學者も、富貴の人々も、貧賤の方々も、强壯の人々も、多病の方々も凡ての萬世の萬民は皆な神様の至極々々御寵愛を蒙るべき子女とならるゝのでございます、そこで眞の神様の神聖光明の御言を御聞きなされて、主イエスハリストスの十字架の御聖功、御復活の大榮大權と御昇天の御光榮と、復た主イエスハリストスが世界の末期に、御審判の爲に大權大榮を以て萬々の天使と共に御降臨あそばされて、善惡の賞罰が決定して、善人と惡人との運命が永遠に定まる等の眞理を智識と心情とに判然御了解になりて、凡て惡魔に屬する所の不眞理的妄信や、眞理福音の光りに照さるゝと耻べき所の一切の惡しき習慣や、忌はしきことや、厭む惡むべき暗夜的詐僞の心情等を悉く捨て、斷然決然起て、天の光明なる父神の光れる顏せの前に、輝やける溫愛の御喜の前に行きたいと云ふ御希望と御熱愛あれば、今も皆様の御神靈に御身體に、天より豐かに盛んに御聖神が御降りあそばさるのでございます、諸君よ私が皆様に神様の御教を御咄し申すのは、たとへば、皆様が御休みある時に夜明に上りて、もし夜が明ましたと申し上げると、あーそうかと仰しやいまして戸を御開きなさると直く旭が御坐敷に照り輝く様なので、又いくら夜が明けましたと申し上げても、却つて何にか危み給ふて戸も開なさらん時には御坐敷は暗みでせう、

さう云ふ鹽梅に私は、天地と海と萬有とを御造りあそばされ、萬民の神靈を光榮に善美に立派になさることを御喜びあそばさる所の天の父神の神聖なる御仁心と御愛憐の御神情を御咄する斗りでせう、皆様はさうか成程尤もだと御了解になりて、知識と御心情とを天の父神の前に御開きあると、神様の御聖神が皆様の御神靈に直ぐ光りを放ちて御降臨あそばさるのでございます、此も直く咄でなく皆様の御詞を以て確かにそれを證しませう、そら皆様の内で誰れ様だか知らんが昨夜も私が御咄して居る内に、成程さうだ此迄は人はつまらん者だ僅かにこうして生きて居る中計りと思ふたが實に尊ふときことが解たと高く御咄なされましたが、それはなんでせうか確かに御聖神の神光が其御方の神靈なる御坐敷に光り給ふたでせうか、帝國の物質的暗みは米艦の砲聲で五十餘年前に開かれ始ましたが、神靈上の暗は天の光明なる福音の光りで開かるゝのでございます、丁度小なるがらすが宏大なる太陽の光線を透す様に、神様は奥妙なる御容智を以て私の舌を御用てあそばされて、限りもなき尊ふとき天の光れる活る御思召を、皆様の御神靈に輝かし給ふのを明ひかに見ますると、私も自分の不當も不學も不德も忘れて、嬉しく喜ばしくなります、實に私共萬民は皆活る獨一の眞の神様の子供でございます、それは無論名斗りでございません、神様は永遠よりの限りなき御仁愛の御思召を以て此の僅かに五十年の生命の爲には斯かるうるはしき完備全盛の天地萬有を御支度あそばされて慈しみ深き父母に御命令ありて、子女を

生育する快樂を父子に御分與あそばされ、永遠の萬福の爲には獨生の御子を御遣はしあそばさることより御聖神を御與へあそばさるを以て御招き下されたる恩命に堅き望を置くので、私共は最早望みなき人でない、無靈の偶像の下に惡神に抑壓せらるる者でない、確かに父母の實體の實子で又眞の神様の神聖至高なる恩寵に依りて永遠に義子とならるゝ權を受くる自由ある者でございます、此の眞理は生命の眞理で、歡喜の光りでございます、此の光りに依りて皆様は私の實に兄さんです、姉さんです、嗚呼大いなるかなハリストス教の力は人性の傷壞を全癒し、知情意に天の大能を賜ふて、一家の平和萬福より一村に一村より一國に、一國より萬國に遂に全世界の至大平和萬福に、今世のみならず永遠に至るのでございます、尚又何人でも主イイススハリストスの御教を正直に御聞きなされて、此を神靈に納れ給ふて主イイススハリストスの御心情と體合なされ、智識も心情も御聖神に堅めらるゝ時には、誰も何ものも奪ふことは勿論消すことも、傷ふこともできん所の完全の喜と樂と平和と愛とが王となりて、神靈的道德の進歩は個人と一家に顯はるゝことは明らかでございます、此は神様が明らかに御公約あそばされましたので神様は「我を愛し我が誡命を守る者には恩惠をほどこして千代に至るなり」「彼の義は其の約を守り其誡を懷ふて之を行ふの子々孫々に及はん」「少き獅は乏くして餓え唯主を尋る者は何の幸福にも缺るなし」「凡そ主を畏れて其途を行く者は福なり」「己の子を惜まず乃我等衆人の爲に彼を付しし者は

豈亦彼と偕に一切を我等に賜はざらんや」（出埃及記二十章十六節　聖詠經百二の十八　同三十三の十一　同百二十七の一　ロマ書八章三十二節）と御啓示ある通りでございます、此の神様の御降福が豊かに其子々孫々に千百代に及び居ることは欧米文明國の篤信家に於て明證せられつゝありませう、故に誰か全能の神様と心情も知識も偕にして居らるゝならば、其御誡を守り道徳の美果を結ぶならば、此の人々より幸福の方々を見付られませうか、其人々より光榮の方々がありませうか、諸君よ見える富貴は神聖なる道徳と比ぶべきものでございません、若し強て比較したならば、世の富貴は夜行の花電車の如くで、神聖なる道徳は太陽の様であるとでも申さんければならんでせう、なぜと申さば聖書に「蓋凡の肉體は草の如く凡の人の光榮は草の花の如し草枯れて花は落ちたり」（マトフイ福音前公書一章二十四節　六章二十九節）と御示あるが如くで、世の富貴は僅かに愚人の尊敬する所で、無知識者の羨やむ所で、「蓋彼死して一切を携へず其榮は彼に伴はざらん」（聖詠經四十八の十八）と義人が歌ふ如く又其實歴は萬世の萬民が明らかに知りて居る實事でございます、そうして其光榮は俄ち人の心にも忘れらるゝもので、後の世の人々に何の益も與へんでせう、併しながら神聖なる眞理の光りを受て光りを放ちたる知識と、神聖なる道徳の美香は、千代に萬邦に輝きて何人にも益を永遠に與へませう、其公益は與へし人も受けし人々も相共に永遠に共通的に光榮と幸福とを増加する者でございます、諸君よ此の御門前に東西と分れし大道がある様に

今は私共人間たる知識と自由とある者の前に常に二つの大いなる道が開かれてあるのです一方は、光榮と尊貴と、平安に行く途で、一方は、患難と、困苦との途です、然れども斯かる公明の結果は多くはかくされてありて、不幸にして惡道に行く人々が多くあるのです尤も天空に居る惡魔は人々を自分の惡道の中に止めて一生徒勞せしめ以て永遠迄自分らの配下となさんことを力めて居るのですが、しかしながら今は天の大なる光り輝ける新しき聖路が明らかに開かれて此の路に何人も行かれ、のみならず此の聖路に依りて、世を渡る時には世の富貴も貧賤も悉く其人に公益のみを與ふて人を害する力を失ふので、一切のことが幸福を増加するの助となるのでございます、それは富貴の方々は神様の大いなる御降福を深く感謝して、其富を以て喜んで多くの貧窮の人々を救助致しましたならば、其善行は其方々の福樂の増加となり、寶冠の原料となるので、貧窮の人々は此に於て忍耐の美德を修め謙遜の德を養ふを以て深く神様に感謝を奉るべきでございます、神様は至大なる御公平を以て萬民を御管理あそばさるのでございます、此をやさしくたとへて見ませうか、慈しみ深き父母は其子女の勞動も行爲も自分のことの如く考へ、自分の勞動も子供の爲と思ふて樂しみ子供も父母の喜びを樂しみつゝ勉勵し御互に我を忘れて、仁と、孝との中に居る時には、其中に云ひ盡されぬ所の甘味がありまして艱難も苦勞もなんとも思はん所の大力がありませう、然るにです若しも此に反して、不幸にも極々強慾殘忍の人の僕婢となり

て使はるゝ日には如何に務むるも其慾に合はんから、勞動の中に恐しき苦難あり勤務の中に不愉快の失望がある樣になりませう、まー丁度さう云ふ鹽梅にて、眞の天の父神の御聖神が私共と共になさる時には、凡ての活動にも凡ての艱難にも、實に其幸福の原となり生命となる所の愉快と光明が良心と知識とにありますから、此に於きまして如何なる名譽も物質も富貴も、又情慾も惡習も惡魔も誘惑することができんので、常に其人々の神靈には動かされぬ完全の喜と、永遠の眞理の光りが輝きて居る者でございます、然るに皆樣よく明らかに毫も欺かんで私共が自分の心情を深く考へて見ましたならばどうでせう、此の天の活る光れる喜が來らん中には、誠に惜むべき至りですか、父子の人倫の間にも金錢には親子もなしなどの不倫情や、一體たるべき夫婦の間にも高尚神靈的合體の倫德なく相かくれ相離るるもあり、兄弟姉妹の間にも兄弟は他人の始めと名づけて御互に父母の一體である大倫を忘れ、朋友に社會に信と義と愛を失ふて、遂には相怨み、相惡む樣のともあれば、ある點に於ては禽獸に劣ることさへもありませう、又如何に外部は立派に裝飾するも、金屋玉殿に居るも、學識あるも、才能一世を驚かすも、大兵を自由に用ひて百萬の强敵を粉碎する大勇あるも、其の肉と血との減退した時に獨り靜かに、天を仰き地に俯し退いて自分の眞正なる運命を熟考したならば、良心は何と答へませうか、知識は何と自分を判定しませうか、其の時に嗚呼の歎聲は一切を總括して答へませんか、此の問答こそ確かに自

分の運命の豫審の決定でございませんか、斯の如くに一切の表衣や、虛しき飾りや、黑暗の衣服を悉く去つたる、眞面目の全人間の良心の問答を、仁慈無量なる全能の神樣は永遠より、御洞觀あそばされて御憐憫の御聖旨に依りて御自分の御造物たる私共を御公憐あそばされ私共の良心を死の行より、全然清め又は赦し給ふが爲に御自分の獨生の御子をして寶血を流させ給ふたるのでございます、此のことは第五講話にて精しく御咄致しましたが、此の良心のことに付きても直く先日御敎を問きに入らした立派な御婦人が私共はあれは惡るかつたと思ふて居ることを良心からなくさることができるならば、誠に嬉しいことですと云はれましたが、此は誠に正しき良心でございます、實に忘れやうと思ふ程のことは尙々忘れられんのでせう、此れ皆段々申し上げたる通り眞の神樣の御公義の光榮の光れる前に誰も耻かしく恐れ多くして出られんことを良心が明證して居るのでございませう、最早人間は眞の神樣の眞正なる宗敎を離れて、道德の完全は勿論凡て人性の要求を滿足せられんことの明證は萬國の歷史斗りでなく、直く私共自分々々御互に常に顯はして居りませう、此に於きまして益々御聖神の御聖佑がなかつたならば、人間はさも水に離れたる魚の樣で永遠の生命を得られんことは明らかでございませう、然れども彼の良心を欺きて自ら無罪潔白と思ふ自負者や自義者や、良心の聲をも天性をも壓潰せんとして惡慾を働きて悔いざる者は眞理の光りよりかくれて暗に行く故論外でございます

㊂御救道に入りて御聖神を受んには。そこで主イエスハリストスの至聖なる御救道に就て御聖神の大いなる御恩寵に依りまして、新造の人となりて以て永遠の光榮と萬福を受るには如何に致すべきかをつゞめて要領を述べませう、第一に、眞の神樣の御神性御神體御神位のことや、主イエスハリストスのことに付き凡て今日迄申し上げたる通り知識と良心とに確かに明らかに御認定あることが必要でございます、第二、殆んど私共の天性の樣になつて居る所の自儘自負、自義心などを全く根本的に捨つることが必要です、第三に、此迄の凡ての神靈上に於ける知識の迷暗を離れて良心に耻づる言行は勿論思念をも自ら正しく認めて、深く悔い改めんとの堅き決心が必要です、第四、深く篤く、全能仁慈の神樣を敬愛し奉り自ら又神樣の義子となることを衷心より願望し、全力を盡して神樣の御教誡を守り、主イエスハリストスと一心一體となりて完全の道德を修めたいと云ふ動かざる心情と希望が必要です、第五、自ら自由にして正教會の信徒となりて、神樣の光榮の爲め人々の救ひの爲に活動せんとの決心も必要でございます、そこで、たとへ外部より見ると中々立派なる方々も、又如何なる罪慾に沈みし方々でも、實に潔淨潔白の樣に見える方でも、或は如何に不淨不潔なる人々でも、此の新に神樣が御開設あそばされたる地上の天國に來りて、天の眞正なる幸福を受べき人間の本分を全く修めんと思はるゝ方々は、神樣の大なる御寵能に依りて一切新造の人となるのでございます、斯かる人々は天よりの大いなる御能力に依りまして、心情と意力とを善と眞と愛と義と平和との中に活動する樣に堅められ、神聖なる光りで知識は照されて居るので眞の幸福の途にある光明の人で此を眞正なる人道を歩む方でございます、此ぞ神聖なる宗教を守るのです、然るに宗教のことに付きては諸說紛々と申すべきありさまでございます、或は諸宗教より善き所計りとりて完全なる宗教を作るべしと云ふ方々もあれば、或は宗教は愚人の信仰すべき者で識者には不必要なれば別に何の宗教が善いとか惡いと云ふには及ばん先つ國法に背かずして幾分か社會の勸善改良に助くる者が第一であると云ひ、或は進步的理想的宗教こそ文明人の奉ずべき宗教であると稱へ、或は東西哲學を折衷して新宗教を造るべしと云ひ、或は宗教は政治の器械に必要であると云ひ、或はどうしても信念がなければ人間が堅固でないから宗教は必要であると申さるゝなど一々あげられん程澤山の論議でございませう、思ふに以上の咄は少々本末を誤りて居る樣に考へられます、なぜと申すに宗教のことに付きましては先つ、第一、宗教とは如何なる組織で如何なる能力あるべき者のことであるか、第二、人間が要求する宗教はどんな宗教であるか、第三に宗教は人間が工夫し得べき者かなどの問題を定めんければならんでせう、それをきめんで論議するのはさも的なきに發砲する樣な譯で誠に惜いかな空論でせう、さらば宗教の宗教たるべき定義や、其實質其能力を考へずして論ずるは誤りでございませう、しかし今日の文明を味へても尙斯かる樣子に宗教上のことが紛

々として居るは又、全く其理由がある筈でせう、そは一言で神靈上の幼稚と名づくるが至當と思はれます、なぜならばです御覽なさい、誰も草木の花實や、枝葉は目に付ませうかでせう、それと同樣で何にせよ其根元と實質を調ふると申すことは、一般とも申し論議とは同樣のものでございません、特に宗教哲學道德などは人間の本體の極々大切なとのですが、それに目の付かんは全く神靈の幼稚と外申樣がないやうでございます、そこで樣々の論でなく直ぐ歸する所の結果を御咄致しませう、實に神聖なる宗旨は、全く天地萬有を御造りあそばされ、萬法を御立定あそばされたる眞の神樣の至聖、完全、光明なる御思召を旨とすることにあるのでございます、さうして人は人の旨を旨と致されませうか、もはや己に知識普及を務つゝある世でありませんか、しからば神聖なる宗教は必全能全知の神樣が深奥完全の御思召を以て人間を御愛憐あそばさるゝことを、人間の方ではよくそれを解りまして、正直なる信仰を以て知識にも心情にも意念にも其御思召を納め入て、無論私共の思念も言語も行爲も悉く皆神樣の完全なる御聖旨に應ずる樣に、神樣の御喜となる樣に勉勵することにあるべきことは明白でございませう、言を換へて申さば、人間は宗教を研究し之を學得して神樣の御聖命を守るは本分で、人間は其の人たる本分を全ふしてこそ始めて人間たる目的に合ふ者です、さらば其尊ふとき光明の知識を得ると道德の神聖を以て輝くことを本分とせんければならんのでございませう、結極人は全能の神樣の大いなる御憐佑に依りて、天德を完成することこそ、神樣と人間との大々神聖の目的で、此を成就する者は神樣の神聖なる宗教であるのでございます、さらば宗教を造ると云ふことは人を造り又は天地を造ると云ふに均しきことで人間には斷じて不可能のことでございます、もう一つの理由がございます人間外の萬有は皆天然法で立派に成立してゐますから人間も其天性を其儘天性自然に放任して置くならば却つて善からうとも思はるゝ樣ですか、此は先にも度々申し上げた通りて人性は中々深く大いに敗れ亂れ傷みてある爲に、此を全癒することをせんければならんので、若しや此のまゝで自然に放任しておきましたならば俄ち全世界は蠻界となるを待つより外はございません、素より神樣の神聖なる宗教の大々目的は、天性を完成するにあるので、又其天性を完成することは人間の萬福であるのでございます、然るに今も申し上げたが人間は實に驚くべき程大々的不自然に陷落してあるので、此をたとへて申さば人は大川に陷落して苦しんで居るのに、此を引き上ることをせんで、其水中に居る者に衣食を與へんとするは眞に本末前後緩急を誤るの甚たしきでありませんか、ハリストス教はさも此の場合に先つ其人を水中より引き揚て、本の場所に安堵せしむることを急務とすると同樣で、彼の恐るべき程不自然的に陷落した人性を、元の天然的本性に歸らして、神樣が人間を御造りあそばされたる御目的と、人の人たる目的とを全成するにある

のでございます、さらば宗教の宗教たるべき神聖の宗教は、全能全知全善の神様の外に、何者を思ひ付くことも無論造ることなどのでき得べきものでもございません、そこで宗教を造らんなど考ふる人々の神靈の幼稚のさまは、櫻花の爛熟たるを見て紙や布を以て座上にて櫻花を造くる小女に克く似たる者でございます、もう一言申し上げませう、主イイエスハリストスの宗教の性質と能力は、神様の方よりは仁と義と充滿なる眞理福音の光明と御聖神の御聖佑とを豊かに盛んに大いに廣く深く御恩賜ある者で、人々の方より正直の信仰と全力を盡して本分なる神聖の道德を修むることにあるのでございます、言をかへて申さば至聖三者の無限無量の鴻恩の光明が、知識と心情とを照して活る信仰を興起するので其の活る信仰とはあらざる所なき眞の神様と奥密に體合して良心は光明の歡喜にて生き心情と意念とは全く死より生命に移りしことでございます、そうして其移りし確證は神聖なる福音の道德を以て顯はるゝ者でございます、素より毎度申し上げた通りで信仰と道德とは離るゝ者でございません、此で宗教の性質や能力のことは御了解と思はれます、併しながら世には僞宗教もあれば、眞正なる宗教の名稱の下に不實者もあれば、僞宗教の中にも善行者もあり、眞正なる宗教の社會にも僞善者もありて、中々又此に紛擾のさまを見るのでございますから深く注意せんければならんのでございます、少々此から其ことを御咄しておかうと思ひます、私は私の畑にて陸米の實る時に稻の穗が美ごとにふさ〳〵と澤山實る中に、形狀には別に變りがなくも大切の穗がからで立てあるのを見ました時に、それをぬきて見ますると、或はしん虫が稻のくきに居るもあれば、或は根に一種の油虫が付きて大抵根を枯して居ることを見ました、さらば此れで根又はくきに害虫が居りて一切の營養分を吸收する爲めに、稻の天性として地中より營養分を全く充分に吸收すると否とに依りて此の樣の驚くべき區別を顯はすことを覺えました、そこで人間は人間たる本分を全ふすべき營養分を、どこから吸收しませうか、無論全能仁慈の神様より頂戴すべきでございます、其頂戴する工合は、草木が地に深く根を張る樣に人の知識と心情とが深く廣く神様の眞理の光りと御聖神の御鴻恩の中に這りて此より一切の御能力を受くるにあるのです、然るに播く者に種を御與へあそばさる神様は御仁慈の無量より大いに深く萬民を御憐念ありて御佑助あそばさるも、心情に陰かに害虫なる自愛自負自義などを養成し、又は不道德を愛する意旨ある者には、無論神聖なる御能力を御與へあそばさらんのでございます、それ敵たとへ其外面は人並でも神様の尊前には、此の樣の人々はまるでから穗でございます此の道理は教會なる社會にとりても、一個人にとりても同一でございます、今やハリストス教と稱ふる者は、曰く、正教、曰くロマ教、曰く新教各派でございます、我が深愛なる同胞方よ、此の道理を以て三つの教會歴史と聖書とを合せて充分御調べあることは目下の大急務の一つと思はれます、諸君よ必ず神聖なる信仰には神聖なる道德が顯はれ、神聖な

る道德の外には神聖なる信仰のある確證を見ることができん者でございます、聖書は明らかに「魔鬼も亦信じ而して慄く」（イヤコフ公書二章の十九の中）と御示ある通で惡魔も神樣を信じてあるが懼れて居るので、たとへば殺人も强盜も、裁判官や巡査や獄屋のあることも律法のあることを也知り且つ懼れて居りまするが、良民の爲には此らは皆己を守り佑くる者でありませう、此の樣に魔鬼どもも神樣を信じて居りますが、自分の意旨と其信ずる所が正反對であるのでございます、私共も神樣を信仰するも其自分々々の意旨が眞理の光りと反對し、又は其光りをある點迄暗ますならば、此は全く神樣の御喜あそばさる所の信仰ではございません、又心中陰かにをれが〳〵的心の驕りなる毒蛇の油につゝまれ汚されし知識には、眞正々直の信仰は誠に愚かに見えて、自分の自信の方ははるかに面白く高尙らしく考へらるゝやうになるのでございます、「蓋十字架の言は、滅ぶる者の爲には愚なり、我等救はるゝ者の爲には神の能なり」（コリンフ前書一章十八節）と御警告ある如く斯かる自信は神聖なる道德と更らに緣なき者でございまして又此の心より顯はる信仰は僞善的信仰で、其僞善的信仰より道德が顯るゝ時は又精神なき僞善的道德でさも實なきから穗でございます、此皆外部的行爲に過きんものです、「故に此の小き誡の一を毀ち、且是の如く人に敎へん者は、天國に於て至と小き者と稱へられん、惟之を行ひ且敎へん者は天國に於て大なる者と稱へられん」又「凡そ我に主よ、主よと謂ふ者は、必しも天國に入るに非ず惟天に在す我が父の旨を行ふ者は入らん。又謹みて僞の預言者を防げ彼等は羊の衣にて爾等に來れども內は殘き狼なり」、又「彼等は人の誡を敎と爲して敎へて、徒に我を尊むと」、又「蓋爾等は一人をも敎に進ましめん爲に、海陸を巡り既に進めば彼を爾等に倍したる地獄の子と爲す」（マトフイ福音五章十九節、同七章の二十一節と十五節、マルコ福音七章七節、マトフイ福音二十三章十五節の中）と御明示あるので、信仰の光りと道德の神聖は不分離なることは明らかでせう、又全く神聖なる信仰なき德行も世にあることは確かでございます、私共は支那帝國にも我が帝國にも其他各國にも、ハリストス敎か傳はらぬ時にも多くの德行家あることを明らかに知りて居ります。「蓋律法を有たざる異邦人等、性に率ひて律法の事を行ふ時は、律法を有たずと雖、自ら已の律法たるなり、彼等は律法の工の其心に銘されたるを彰す此れ彼等の良心及び互に貶め或は褒める思慮の證する所なり」（ロマ書二章十四節十五節）と御示ある如くで多くの德行家のあるべきは亦明らかでございます、私も佛敎信者方の中に實に立派な德行家を隨分知りて居ります、勿論どうしても德行は德行で、善行はどこ迄も善行に相違ありませんので、惡行とも不德行ともならんのです、併しながら此は第五講話でも申し上げましたが、人性の敗壞が全癒したる顯れでもなく、惟不自然的の中に於て克己勉勵の結果、天性の完全の幾分が發現したのに過ぎんのでございます、故に人間の完全を御思召さる神樣の御光榮の尊前には、さも病人が敗れたる汚れ衣を服した樣な次第で恐れ入りて出られんのでございます、どうしても神聖なる眞理の光りで知識を淸められ、神樣の御宏恩に依りて人性の敗壞

を全く癒さるゝでなくんば、神様の御光榮の前には驚きと懼れが良心よりとり去ることができんのです、勿論此の様の人々の御審判は其良心と天性とに從ふて御定めあそばさるのでございますが、第二の講話で申し上げた通りで、斯かる人々の途はもー己に終へたのですから今更其小好に安ずべきでございません、勿論斯かる德行は福音の眞光にて照さるゝ時には今も多くのかけめや、不足を明らかに見られませう、況んや光榮の神様の光明なる御審判の前に於ておやでございます、實にハリストス正敎會の眞の信者は神聖なる信仰と道德とを毫も分けることなく、常に思念にも言語にも行爲にも、勿論夜も晝も獨居に衆中に富貴に貧賤に、幸福に艱難に、順境に逆境に、光榮に輕蔑に、壯健の時に疾病の時に、平安の日に戰亂の場合に何れの時にも何れの事柄に對するも、光明睿智仁愛剛毅忍耐を以て聖書に「是の如く爾等の光は人々の前に照るべし彼等が爾等の善き行を見て、天に在す爾等の父を讃榮せん爲なり」（マトフイ福音五章十六節）との御敎訓を實行を以て證明すべきでございます、そうして又若しや不幸にして惡魔の誘惑の爲に罪過に陷いりしなば速かに痛悔して此を改むべきことを知り且行ふ人々でございます、是れぞ段々御咄し申し上げたる通り、主イイスハリストスが御昇天あそばされ、御聖神が豊かに盛んに御降臨あそばされて、人間の敗壞を癒し給ふて、永遠の光榮なる御救の御聖旨に應ずる様に御撰民を開導し之を養成する正敎會なる獨一無二の宗敎でございます。さて又私共は斯かる宏大なる御恩寵を神様より頂戴して、今より立派なる光りの子となりて、永遠限りなき萬福快樂を神様の御光榮の前に受ることは判然火を見る様に解り、その途をも明らかに知りし以上に心情に天の聖火が燃えしなば、無論私共も儆醒勉勵してあらんかぎりの知識と能力とを此が爲に盡さんければならんことは當然でございます、大なる幸福は必ず大なる勉勵と大なる忍耐とを以て得らるべきことは何人も疑ふことのできん眞理です、諸君よ仁慈深き神様は奇妙に廣大にありあまる程豊かに私共を御佑助下さることゝ御憐念の無量なることを明らかに常に見ませう、私共に何一つ不足なく御賜與あそばさることを御喜びあそばさることは實事が證明して居ります、御覽なさい私共は此の地球なる屋敷に活動するが爲に此の地球より百二三十萬倍もある完美の太陽を御與へありて物の影もなく、くまなく明るくして下され、私共は適度に活動すると壯健になる様な空氣を以て、此の地球をつゝみ給ふて、それを呼吸せしめ、私共の渦を止め汚れを洗ふ爲に無數の泉と川とを賜はれ、其他數がぎりもなくありあまる程萬有を御恩賜下され、小々の勞動で宏大の賜を得る様に御恩命あり其上、其勞動は身體と知識と心情とを强壯にする法となり、尙又、父子、夫婦、兄弟、姉妹、朋友、の間に、一村に、一國に、萬國交際に悉く生命と喜と樂とを得べき神聖なる清き法を御立定あそばされたので、義人は「主は宏慈にして矜恤寛忍にして鴻恩なり、主は悉くの者に仁慈なり其宏慈は其悉くの作爲にあり」、「爾の手を開き惠を以て悉くの生ける者に飽かせ給ふ、

主は其悉くの途に義にして其悉くの作爲に仁慈なり」（聖詠經百四十四の八と九と十六と十七）と歌ひました如くで、其聖なる法に從ふて良心を以て知識を以て活動する時には、何時も幸福も快樂も愉快もありあまる程御鴻恩的に御賜與あそばさるので、そうして此には進歩と發達と光榮が同伴する樣に御確定あそばされてあるのでございます、此の光明なる實事は歐洲の文明史と正教會の教會歴史が太陽の光りの樣に證明して居ります、さて今も此の光明なる幸福を妨害する者は、無知識無教育、傲慢嫉妬、怠惰淫亂、忿怒無禮、無秩序氣儘等の人間と惡魔との合意的不法が働くので、光明の神樣よりの法も御定めも賜も悉く一切皆光明なる幸福と歡喜とにありて、永遠に至るのでございます、勿論斯かる幸福を受る樣に己を癒すとは大なる忍耐と勉勵が必要でありて、己に傷みし人性が直ぐ此の途に入らるゝ者ではございませんことは明らかです、時として義人方は恐るべき艱難と不幸に逢ふてともございますが、其時には此の艱難と不幸とに充分打勝ちて餘りある神妙の能力を賜はれて愉快と歡喜とが其義人の心情に活躍して居るのでございます、「義人には憂多し然れども主は之を悉く免れしめん」（聖詠經三十三の二十）と歌はれ救世主は使徒方は後ちに大なる艱難に逢ふも「彼等が己の中に我の全き喜を有たん爲なり」（イオアン福音十七章十三の中）との御祈禱は、無論實體で、萬難千苦の中にありし至大聖使徒は「常に喜び」（コリンフ後書六章十節の中）と自ら證明なされました、此と正反對に惡人の爲には半日も片時も、神聖なる幸福がありません、此の人々の爲には萬有が皆敵でございます

聖人は「炎風は彼等が杯の分なり」（聖詠經十の六中）歌はれて其如何に不幸なるかを示されてあります、實に惡人の爲には太陽も裁判官の如く恐れ、春の白晝に温々たる良風が萬の物を復活せしめんとする光明をも、己をかこむ敵の樣で却つて人の安眠すべき暗夜を工場の光りの樣に待つて居り、身體を喜ばしめ骨と肉とを堅むる飲食も、慾の火を熾んにする薪となりて智識を燒き良心を爛らす所の恐るべき害となり、男女の清き愛々の情も、獸慾と變じて神靈と身體とも呑み殺す所の大蛇の食物となり、遂には天地の美妙をも忌みきらふて、人性の尊榮をも惡む所の醜汚不淨の中に陷いれて、全然禽獸よりも劣等となり、惡魔の奴婢となるのでございます、諸君よ全世界は廣く、人間の職務は千百あるも毎日毎時一分も止めずに歩む途は、一方には善と光明と道德で其行末は平安で永遠の萬福の生命で、他の一方は惡と暗と不道德とで其終りは永遠の禍でございます、そうして私共は何れの途に行くも全く自由の意識と自分の心がけによるので、其常の顯はれは勉勵と怠惰、忍耐と不堪忍、眞實と僞善との兩途でございます、さらば私共は深く自ら省みて若しも不善の途を歩みしことを悟りしなば速かに平安の途に移りて永生を得ることは、墓に入らざる中は自由でございます、仁慈無量の神樣は此の平安なる福音の途に萬民が歸り來たることを深く御望みあそばされ此の喜ばしき途に來たる人々に大いなる御鴻恩を豊かに盛んに賜はるる者でございます、諸君よ墓は一つの關門で此に於て神靈と身體が一度場所を異にして、此の世の萬事休する

のですが先にも精しく申し上げた通り此で良心は御審判に御答せんければならんのでございます、故に私共は人間と生れたる光榮と尊貴と喜とを思ふて、大いに振ひ興きて深く謹しみ自分の幸運を全ふせんことを力むることこそ本望でございませう、最も尊ふとき三位にして御一體御一性にて居らつしやる眞の神様と共に限りなき光榮の萬福を永遠に受べき途に進みまして、此より御聖神の御聖能と御聖旨が良心と知識と意力とに偕にして下されて、人間たる尊ふとき本分を全ふすることこそ勉むべきでございませう、此が爲にはできる丈全き信仰と清く正しき心情と、熱き淨き愛情を萬事萬端に活用することが必要でございます、私共は眞に赤子の様な正直の衷心と、正しき智慧を神様に向けて、全神靈を僞りなく神様の前に開く時には神様は大いなる御仁慈で居らつしやるのみならず、主イイススパリストスが萬民の爲に御盡しあそばされたる御功德の無限無量なるに依りまして、私共の思ひより萬倍の御憐念を蒙り、豐かに盛んに御聖神の御恩佑が降感するのでございます、そうして此の御鴻恩は子々孫々千百代に及ぶ者で、此は皆創世の時より敎會史が明證する所でよく注意すると萬國の歷史も亦此を證明して居ることを覺えませう、さて御聖神の豐かに盛んに大いに深く廣く、御聖佑あることは獨り十二使徒方にのみでなく常に全正敎會に顯はれてあるのでございますが、此の恩寵の特に顯著なる者を正敎會は聖神の七恩と名づけます、それは御聖神は其御鴻恩を受るに堪える人々の天性の特質に依りて顯はるゝのでございます、此をたとへて申さば天皇は大臣方の才能の各々別々であることを御明識あらせられて、或人を、總理大臣に、或人を、內務大臣に、或は外務に海軍に陸軍にと云ふ樣に御親任ありて、夫々其職權を御與へある樣に、神樣の御聖神は其受る人々の天德と任務や、希望と熱心との度量に應じて、御佑助あそばさるので此は又さも太陽の光線が七色のがらすを透す樣で七つの顯はれあるも同一の御聖神の御恩佑でございます、素より御聖神の御目的は此地上に於きまして、全世界は神聖なる平和と幸福になりて萬民が永遠の萬福を受るやうに支度をなさしめ給ふにあるので、其御鴻恩の盛んに敎會に顯はるる光景はとても人間の考慮には及ばん程立派で善美で高尙であるのです、それは天地萬有を御造りあそばされたる、全能全知仁慈無限の神様が、其方々の良心にも知識にも意力にも密々深く體合なされて、主イイススパリストスと一心一神になる時に、其知識や道德の立派に盛大に完美になるとは如何に盛大であるか人間の意想外であるとは明らかでございませう、そこで此の七つの恩佑の第一は○明智、と申す御鴻恩でございます、此の第一の御恩寵は文字に見える通り明らかなる智慧と云ふことですが、此れ迄も段々御咄申し上げたる通り、人間の尤も大切なる智慧が何程暗くなつたか、驚きはてたる次第でございます、どうでございませうか、若しも太陽と星とを見違ふたり、白いと黑とを誤る樣の目の人がありましたならば、皆氣の毒に思はんて居られませうか、然るに太陽と星どこでない全能の活る眞の神様

と人々を同一の樣に思ふたり、神聖なる光れる善德をも惡習慣の爲に之を惡と名づくる樣の人々さへもありませう、又物質上のことや凡て社會の外部のことには中々知識も才能もあるが、大切なる人間の本分たる信仰と道德とのことに付きては驚くべき暗迷と醜體を極めて居る方々もございませう、何しても御互に自分と名づくる本體本質である神靈上のことや、人性の尤も大切である永遠の運命のこと等に暗くして知らず〳〵惡しき途と迷の路を歩む人々が澤山ありませう、又は少々は其理を知るも心情の惡慾の爲に惡しき途に入る人々もありませう、然るに此の明智なる御恩寵を受たる方々は、神樣が私共を永遠の萬福に御導きあそばさる所の福音の神聖なる御聖誡を、あり〳〵と光りを見る樣に解りて神聖なる道德を全く修むる樣になるのでございます、實に何の世でも何の國でも道德と申すことの尊ふときとも光榮なることも、人間の大切なる本分であることをも知らん譯ではございませんが、中々さらばと申すと道德程修めがたくして尊ふとく、又美はしき者がございません、道德は神靈の本體と質質との表現です、素より神聖なる道德は神樣が人間を御造りあそばされたる目的で人間一切の組織も業務も勤勞も結極の目的は完全の道德にあることは、眞理の明證する所でございます、故に此ぞ人たる大本分で神聖なる道德は先にも御咄致した通り神樣の萬德に肖ることで、永遠の光榮なる萬福を得べき本質の自然の表現でございます、そこで此の明智なる御恩寵を受し人々は、凡ての詭りの途や、惡人の謀や、虛しき光榮なる名譽や、自負心が喜ぶ所の自義なる僞善や、衷心の眞暗なる傲りや、仁慈限りなき神樣に離るゝ自愛心や、氣儘氣隨放逸などや、凡て魔鬼の質と其に似たる者と皆永死の恐るべき暗みの途であることを明らかに知りて人間の光明なる公道である所の、主イエスキリストが十字架を以て御開きあそばされたる天路を日夜怠りなく進行する幸福の人々のことでございます、義人が「惡人の謀に行かず罪人の途に立たず敗壞者の位に坐せずして、其心を主の法に置き晝夜此の法を思念する人は福なり」（聖詠經一の一と二）と歌ひました、第二〇聰慧と申すのですが此御聖恩を受し方々は、神樣の最も尊ふとき御聖旨を悟る所の喜と福を得るのでございます、此の御鴻恩を受けまするとと、神樣が人間に御示しあそばされたる御思召をよく、心情にも知識にも領得するので誠に高尚なる道德を修められたる光明の方々でございます、たとへば天皇は常に御左右に居る忠誠々實の人々に其御思召を御咄なさいませう、丁度其樣に「主云ひ給ける、は我爲さんとすることをアウラアムに陰すべけんやアウラアムは必大なる强き國民となりて天下の民皆彼に由て福を獲るに至るべきにあらずや」（創世記十八章十七節）と御示しある如く、已に聖せられたる知識と心情には神樣の完美なる御聖旨が映り輝くのです、故に此の御鴻恩を受し人々は神樣の義子たることが顯れ居る幸福の方々でございます、第三〇謀略の御鴻恩と申して、此の文字に見える通りで此をたとへて申さば、國家は大戰爭の時は申すに及ばず平常でも、獨り忠誠の文官斗りでなく、よ

く敵の動靜は勿論其作戰の計畫は云ふ迄もなく、其軍備等に至る迄明らかに知りて、一朝事ある時には敵軍を敗ぶり或は追擊し、或は之を捕ふて以て國家を泰山の安きに守る所の大將又は參謀が尤も必要であることは明白でせう、さもその樣に神樣より此の謀畧と名づる御鴻恩を御受になつた方々は、眞の神樣の逆臣でありて、全人間の公敵で正敎會を害せんとして居る惡神邪靈なる魔鬼共の詭計や、詐謀を悉く覩破して多くの人々を迷の中より救ひ出すことや、慾と惡との捕虜中より救ひ出すことや、又は惡魔の惡謀や神靈上の戰術を明らか敎訓して、信仰を堅め德を勸め誘惑より防ぐことを力められて、多くの人々を公敵と惡慾より救ふことを務め給ふ尊ふとき幸福の方々でございます、第四〇超識の御恩寵と申して此の御鴻恩を御受なされたる方々は、神樣の福音の眞理を深く廣く理解して主イイスス・ハリストスの御聖愛の御思召を世に多く顯はさるゝ者でございます、此の御鴻恩は正敎會に輝ける所の多くの聖主敎方に明らかに見えてあります、實に此の方々は福音の光線とでも申す樣に此の人々の御働は、惡魔の暗迷を破る神光で又電光の如くでありて神樣の御仁心の光も御憐愛の香さも斯かる方々の口と舌と指とより顯れて如何に世に宏大の利益を與ふるや計られん程で此の如き御恩を受けし方々は大いなる幸福でございます、第五〇勇敎の御鴻恩と申すので、此御鴻恩を御受になつた方々は神聖なる輝ける信仰を堅く守りまして惡魔の直接の誘惑にも世の種々なる誘惑にも見ごとに打ち勝つ方々で「主は我が光と我救なり我誰をか恐れんや主は我が生命の防固なり我誰をか懼れんや」（聖詠經廿六の一）と預言者と偕に歌ふ方々で眞に幸福の人々でございます、第六〇敬畏の御恩寵と申すので、此の御鴻恩を受なされたる方々は、光榮、完美、尊嚴で居らつしやる恩愛無量の神樣を畏るの畏を、全心全意全力に滿す所の恩でございます、神樣を畏る御鴻恩と申すと一寸解りがたき樣ですが、よく考ふると誠に明らかに解りませう、ある聖人が神樣を畏るの畏れは一切の畏を追ふと申されました又萬善の根は此の畏れてあることを示されてあります、預言者は「凡そ主を畏れて其途を行く者は福なり」（聖詠經百廿七の一）と歌ひました、どうでせう私共の心情に如何なる畏れがありませうか、少々あげて見ませうか、そら地震を恐れ、火事を恐れ、流行病を餓饑を大旱を洪水を盜賊を恐れ、又は戰爭を貧乏を死を其他多くの恐が心の內に充ち、又外をかこんで居るでありませんか實に此の無益の恐が衷心の主人となりて、誠に愉快である眞に歡喜である快樂であると云ふことはさも一寸來たる珍客の樣でありませんか、諸君よ此皆實體實事でありの儘のことでございませう、そこで若も此の尊ふとき敬畏と名づくる御鴻恩を御受になりましたならば、此迄御客の樣であつた者が心情の眞正の主人となるので、此迄の眞心の樣に思ふて居つたのは人の神靈の傷みであることを覺え、最早其傷みが更に癒されたる確かなる證明として一切の懼が去ることは、さも太陽が出て暗みがなくなりた樣になるのでございます、そーして神樣を敬畏する畏れには完全なる天の

喜が常に其御方々の心情に滿ち溢れて居らるゝので聖書に「常に喜べ」（左サロニカ前書五章十六節）と御示しある人々で誠に幸福の至りでございます、第七〇度誠の御鴻恩と申すので、此の御鴻恩を受なされたる方々は丁度孝心深き子女が、慈しみ深き父母に務むる樣な鹽梅に天地の主宰で居らつしやる眞の神樣に務むるのでございます、實に斯かる方々は常に燃ゆる樣な愛情を神樣に顯はさるゝ方々で、たとへ身は如何なる所に居らるゝも知識と心情とは神樣の寶座を離れんので、救世主は「神は神なり彼を拜する者は神を以て眞を以て拜すべし」（イオアン福音四章二十四節）と仰ある所の祈禱を相止ずに務めらるゝ御方々で誠に尊き光りの子で、美はしく香ばしき美德を神靈に修めたる幸福の人でございます、以上の七つの御鴻恩は素より同一で何も輕重などの區別がございません、聖書に目には目、耳には耳口には口と云ふ樣に百體中々色々の機能ある通り、神樣の御國なる正敎會にも種々の御鴻恩が顯はれて、主イイスス、ハリストスの奧妙の御尊體である一體を成すことゝ、此皆獨一の御聖神が主イイスス、ハリストスの無限の御功德に依りて豊かに盛んに御降臨あそばされて、神樣の御光榮と人々の御救を全成し給ふのであることを御明示あります（コリンフ前書十二章）さて諸君よ今は俗に冬枯れと申す時でございますが、此より五六十日も過ぐると春風が暖かに吹き來たりて、梅花は清香を放ちて先づ私共に嚴寒の終りの近きを知らせ、つゞきて櫻花は勿論山に野に谷間に百花爛熳として神妙の美を呈する時に、私共は其時には最早美の神妙と心情の快感とに知識は讃詞を奪はれて、唯嗚呼善い香だ、嗚呼誠にきれいだと申す斗でございませう、然らば況んや萬物の靈長て、最も尊き神樣に肖たる尊榮の美德が開發發展する時に、神樣と偕にして本分たる道德を修め本質たる光榮の幾分が顯はるゝ時に、如何に其善、其美が盛大なるかとても形容ができん筈でありませんか、彼の梅花の美香や櫻花の爛熳や豊作の果實の比にあらざるとは明らかでせう、なせなれば人間の冬枯なる惡魔の壓制より、今は神靈上の奧妙の春になりし爲天の活る太陽が輝きて、御聖神の御鴻愛が溫和なる良風の如く吹き來りて、革新したる神靈に身體に善と美と眞との天德が言語に行爲に顯はるゝとは名け云ふとのできん美であるは明白でせう、聖書に此の顯れを神の果と名づけられてあります、（ガラディヤ書五章二十節）第一に仁愛第二喜悅、平安、恒忍、仁慈、矜恤、信仰、溫柔、節制との九でございます、勿論其他の善德をも豊かに盛んに美はしく顯はるゝのでございます、諸君よ如何でせうか、此の如き立派なる人々か人の父母となり敎師となり主人となり、又は僕婢とならうと若しくは大政治家とならうと商工者とならうと、又は學士博士となるも軍人となるも、農夫とならうと何の會社に居るも何の國に行くも、唯善と美との天德が光る斗りでございませう、此の如き人々は何の國の國法と衝突致しませうか何の學術と爭ふでせうか、唯暗迷の頑信と惡習慣とを捨つるのみでございます、故に眞正なるハリストス敎を信じて、主イイススハリストスとに奧密に體合し、御聖神の御聖佑に依りて人の人たる天德を全成

せんならば却つて恐らくは、内外より人たる精神をぬかれて、殆んど案山子の様になる恐れがありませんか、なぜと申すに内にありては人間の人間たる眞理を明らかに了解せん爲に其本分も目的も無論理解せんで一生を夢の様に送り、外に於きましては言語行爲が凡て唯此のくさるべき肉體の爲斗でありましたならば、誠に悲しいかな此の人々は先つ第一に人をとられませう、唯人と云ふ空名と夢想がのこる斗りて實體たる人は永遠に惡神の手に止められませう、如何に驚くべきことでございませうか、そこで宗教が必要でないの又は宗教は愚夫愚婦にのみ必要であるなどゝ云ふ方々は先つ人が必要だか不必要だかを考ふる方が宜しうございませう、諸君よ今此に第七講話の大意をまとめて申上げませう㊀ハリストス教も談論又は此を聞くのみであれば更に益なきこと㊁神様の御聖神を受ざる時には、如何なる人でも人性の亂れと敗れを癒さるゝことができんこと㊂主イエスハリストスが御昇天後十日目に御聖神が大いに盛んに豊かに十二使徒方並に其時の御弟子方に御降臨あそばされて、それより其人々がまるで革新して實に奥妙なる新造の人々となられたること㊃御聖神は其時より正教會に充滿して居らつして眞正なる痛悔者を全く天國の子となさること㊄御聖神は父神と御子と御同榮御同權の全知全能の神様であること㊅何人でも御神聖の御鴻恩に依りて更生せんければ御救を得がたきこと㊆御聖神の御聖佑を受ざる時の人性は無論永遠の光榮なる生命なきこと㊇御聖神の御聖佑を受し人々は確かに道德の光れる輝きにて天の父神を讃揚する様になること㊈御聖神の御聖佑にて主イエスハリストスの御聖功が全く信者に臨みて、人間をアダム犯罪以前の時よりも立派に神聖なる自由の人と爲さるゝこと㊉御聖神の御聖佑が人々に臨みし眞理は聖使徒行實と教會歴史にて明證せられしこと㊊御聖神の御鴻恩の結果の大畧でございました、さて諸君よ私は度々ハリストス正教は實に人をして人間たらしめ、人間をして人間たる本分を修め得て萬福を永遠に受けしむる働きをなさしむるにあると申し上げましたが今は御解でせう、此次ぎには御聖神が正教會に充滿して居らつして、そうして至聖三者の御聖慮である御鴻恩と御聖佑を私共はどうして受得らるかと云ふことの眞理を御咄し致ませう

第八講話

○萬民が神恩を受くるか爲め正敎會に神が七ッの機密なる大禮を定められし事

㊀今晩は先つ敎會と申事を御咄いたそうと思います、敎會と申事に付きましても色々樣々の解釋が御座いますのてすが、今夫れを一々此にあげて御咄申上ぐるのては御座いません て、私共の堅く信じて居る事を御話するので御座います、其て聖使徒方聖主敎方諸聖人方の御敎や、正敎會か古より常に信して居る所の大意を申上げませう、敎會と申事は文字に見える通り敎の會て御座いますから、其敎を信して居る人々の組合、又は社會と云ふ事になりますか、私共の正敎會はどう云ふ社會かと申さは。人間か自由の意旨を以て、眞の神樣の御聖約を正しく受け認めまして、人間の方でも神樣と堅き御約束を致して、そこて神樣と人々の公約が成立して、此れよりは專ら神樣の完美で神聖で清潔で眞實で愛である所の尊き御旨を行ふときめた所の社會て御座います、此の社會は實に㊀神樣の萬民を御救ひあそはさる聖なる御目的に應する樣に、㊁至聖三者の御鴻恩に依りて神樣の御光榮を顯はしつゝ人の人たる本分を全ふする樣に世を渡り居る人々の組合の事て御座います、又此の敎會を或は天國とも申すので御座います、全體此の敎會は世の始めよりあつたのて、人間かある時に、人間の存在と共にある者て御座います、初人アダムの爲に彼の地堂は神聖なる敎會て御座いました、先きに御咄した通り、神樣のアダムに度々顯れ給ふてアダムに御咄あそはされアダムとエワは喜んて神樣の御聖旨に從ふて居つた、其の時は神聖なる正敎會て御座いました、然るにアダムの油斷よりの犯罪によりて、此の敎會に惡魔か、自分の詐謀を入れたのて御座います、此れより此の正敎會か戰鬪の敎會となつたのて御座います、夫は一方には神樣の御聖旨に從はんとすれは、此を一方には破らんとする働きか顯れたのて御座います、此は段々の御咄て御了解の事と思はれます、如何にせん人間か愈々惡慾にまけて、殆んと天性の高尙なる神聖の妙味を失はんとするに至つたのです、然れとも又實に人間の人間たる生脈とも申べき眞理の光りと道德の力は、例へ微々たりとも世に全滅せすしてあつたのて御座います、聖書に「光りは暗に照り暗は之を蔽はざりき」(イオアン福音一五節)と御啓示ある如くでございました、そこてアダム犯罪後大聖人モイセイか神樣より神聖なる律法を御受けして、神樣と人々との大倫と人間相互の大倫を書物に記して、萬民に示された る時迄大凡四千余年間も、無論神聖なる敎會は堅く立て居つたのて、此れを先祖の敎會と申のです、此の四千年間の人々は驚くへき長命と、先祖の傳を堅く守る熱心確實と神樣を畏れ神樣に誠心誠意の忠と信と愛とを守られし聖德の人々を以て、此の四千年間は神聖なる眞理と、道德とを守られたのて御座います、そして四千年の後聖モイセイは、此の神聖なる傳を書に記する事を神樣より命せられて、神樣を祭る事より神樣を信して救世主を御

待受申へき國民としての國民法迄も、精しく顯はされたのて御座います、さて此の敎會の開發發展はと申に、此の四千年間の敎會を例へて申さは、さも一つの種を地に播き置れたる樣の者て御座います、又は僅かに一本の木を植て置れた樣の者てす、此の四千年間其一本の木か大木となりて、枝を東西南北にひろけた樣に、それからそれと隨分廣く世界に人間の繁殖と共に廣かつたのて御座いましたか、しかしながら正當に眞の神樣を信仰して、以て正當に神樣と人々との大倫を明らかに理解して、神樣に祭りを献り又道德を修めつゝあつた人々は、眞に曉天の星と申べき位の少數てあつたのて御座いまして、唯一つの血統の人々か、唯一の一系統の眞實を守りて居つたのて、一般の世界萬民は、大抵眞の神樣を忘れて、眞の神樣の代りに日月星辰を祭るやら、其他は人々の智惠を祭るやら、山川を祭るやら、人々を神や佛として祭るやら、實に紛々擾々となりて、千種萬別の宗敎や、甚たしきは淫祠邪敎や、魔術占術迄も人間の上に權を取るのあはれむ可き有樣となつたのて御座います、かゝる黑暗なる中に、僅かに眞正なる敎會は唯一つ信と義とを愛する所の一族の中に堅立してあつたのて、此は其大木の眞の樣て御座いました、此の一族か段々と成長して大民族となりて、此より將に國家をなさんとする時に丁度大聖人モイセイか顯れて、此の家族的敎會も發達して遂に律法の敎會となつたのて御座いました、此で家族社會が國家となる民度の成長は、人民の智識の成長て御座いまして、其人民の智識の成長と同時に敎會も發展し整齊すべきは略易き道理て御座いませう、此の敎會の發達の樣子は、たとへて申さは家族的敎會の時は、敎會の幼稚てあつた事は、丁度赤子か、慈母の懷に在りて母の乳と母の溫かさて成長する樣の鹽梅てあつたのて御座います、律法の敎會となつた時には子供か成長して小學校に通學を始めた樣な者て御座います、律法の敎會と申すのは舊約聖書三十九冊の中の始めの五冊を律法書と名つくるのて御座いまして、此の內に神聖なる眞理と聖なる歷史と、神樣を祭つる規則等を最も詳かに示されてありました、此の律法の敎會か終る時には必す、神樣の獨一子たる主イヽスヽハリストスか御降誕あそはされてアタムに及ひ諸先祖方に御約束の如く、全人間か神樣と人々との關係を明かに理解して、神樣の御鴻恩か悉くの全世界萬民に溢るゝ樣になる所の神聖なる尊き、高尙完全完美の敎會か起る事を堅く信して待つて居たのは、律法の敎會てあつたのて御座います、律法の敎會の目的も組織も、皆此の完全なる正敎會の地上に開設ある事を信して待つ事にあつたのて御座います、丁度子供か學校に通學し、學業か進步して卒業せし時には、愈々社會に出て其本分に應して活動する時となる樣な者て御座います、此の律法の敎會は、アジヤ州のイウデイヤ一國にあつたのて御座いまして、大凡一千四五百年間立て居りました、そして此の律法の敎會は世界中に於て誠に微少なるイウデイヤ國に堅立してあつたのて御座いまして、此の一千四五百年間にイウデヤ國の外の國々か、中々外部か盛んて御座いました、此の間にク

レチヤの文明もあれはロマの文明もありて、皆世界的文明て御座いました、支邦帝國なとも隨分に開けてあつた樣で御座います、日本ては此の新約敎會の始まらんとする時は丁度欽明天皇の時て御座います、此の律法敎會の時代の終る時は、先きに申上けたる通り一方には全世界の萬民か自由にして、人間の大我か折れかゝつた時て、一方には律法の敎會ては最早神聖なる律法はとても〳〵人間か行はれんて、全人間は彼のアタム並に先祖方に御公約ありし通りに、救世主か御降誕あそはさるべきてあると云ふ時に、果して全世界萬民の爲に新たに完全の敎會か建つたのて御座います、實に全能、全智、仁慈、無量の眞の神樣は、測り知る事の出來ん御睿智を以て、一方には、自然的小學を全世界に自由に設立して人性を研くに御任せありて、冥々中に御佑助あり、一方には、一般全世界か神聖なる神樣の敎會に入れらるゝ御鴻恩を受くるに堪ゆる支度か段々となりし時迄に、律法の力か人々を救ふに無力であると云ふ事を明らかに悟らしめ給ふて其時に、驚くべきかな、神樣の大なる御働きか顯れまして、神樣の獨生の御子か人性と結はり給ふて、大なる御聖業をなされて以て神樣よりは非常なる御鴻恩か溢れ、人間よりは非常なる信と愛とか顯るゝ所の敎會か全世界に開かれたのて御座います、此の敎會か即ち正敎會てあるのて御座います、さらば以上の御咄て御解りでせう敎會と申す文字は易しく誰れても名付けられまするか、神樣の正敎會なる神聖の歴史は唯一つ外ございません、そこてアタムより四千年間の敎會と、律法の敎會と、夫れ〳〵其敎會に目的と任務とあつた事や、其同時代の全世界の樣子も御了解と思はれます、そして今の敎會を恩寵の敎會とも又は戰の敎會とも申のて御座います、此の恩寵の敎會は、實證と意義と高尚との事に付きましては確かにアタムの地堂に勝るので御座います、戰の敎會と申のは惡魔を擊破して全人間を惡魔の捕虜より救ふ所の働をするに依りてで御座います㊀さて以上の眞理て明白なる通り、此の正敎會もアタムの時より聖モイセイの時迄、四千年間唯一て御座いました、又モイセイの時より千四五百年間の律法の敎會も亦た同しく一つて御座いました、此のモイセイの律法敎會時代にも色々の異端も御座いましたが、神樣の深き御思召にて神殿さへも一つ外造ることを御許しかなかつたのて、全く敎會か一つて御座いました、又同しく此恩寵の敎會も無論唯一で御座います、實に神樣か獨一で又獨一の父神より永遠に御發出あそはされて獨一の主イエスキリストスの御聖名に依る敎會に豐かに、御降臨あそはされたる御聖神も、もとより獨一で居らつしやるのです、勿論眞理は唯一てありて、二つ三つあるわけも筈もないのて、若しや萬一にも眞理か二つ三つあると思ふなれば、おほきなる誤りて必すその中の一は眞で他はいつわりてあるのに相違かないのて御座いまして、一方はいつわりにきまつて居るのて御座います、又全人間の希望もたとへ千差萬別の樣に顯れて居りても、いよ〳〵其終極はと申すと唯一てあるのて、此の全人間

の唯一の希望たる人性の萬福を全く受けさする所は二つ三つあるへき筈も御座いません、夫故に教會は二つも三つもあり得へき者で御座いません、聖書に御示ある教會なる意義と目的を知りて、神様の御鴻恩と、自由の意旨とて正教會をなせし所のその教會は、神聖で、唯一で、公明で、そして空理てなく、實體で萬善で萬福で高尚で永遠である事を一言で顯して、尤も明かに御示ある事は、「教會は乃彼の身にして一切を以て一切を滿つるものの充滿なり」(エフス書一章二十二)と斯く教會は主イイススハリストスの御身體てありて、主イイススハリストスは御一方てあり、獨一の御子の御神性か人性と結ばり給ふて、獨一の御聖神か充滿して居らつしやるので御座いますが、實に正教會も亦同しく神様の活ける御言と、獨一の御聖神か充滿して居らつしやるので、たとへ全世界各國の人民か教會にあるも已に教會員となるや直く悉く同一となるので御座います㊁そして此の唯一の正教會は、又公教會て御座いますなせと申すに福音の眞理の光りにて智識を聖せられ、御聖神の御恩寵に依りまして一切の不法と惡習と惡風とより心情を聖にせられて、新に生れたる天國の嗣子たるへき萬世の萬民を治め養ふ所の神聖なる法規聖祭神禮等を以て、同一に公けに導かれ、教へらるる者て眞に全天地萬有の眞の神様の御聖旨を以て永遠に光榮の萬福を受けらるゝ様に養成する所てあるので御座いますから、素より此の正教會には地方的性質などか混らんのて御座います、此の正教會はイウデヤ國よりグレチヤ國に傳はりグレチヤ國より露國に傳はり、露國より、我か日本帝國に傳はりましたので御座います、そして此の眞正なる正教會には、毫も露國風とかグレチヤ人の性質とか、風とか云ふ様のものが混入して居らんのて御座います、又そんな事が傳はるへき筈も御座いませんのです、尤も其一時的地方的の國質國風などか傳はりやうもありません事は、さも太陽か米國を照して段々日本を照す時に何も此の太陽の光線か米國風や米國質を持てくる事か出來んと同様て御座います、私か皆様に御咄した中に、私共の大切なる眞理の光り、道德の善美の中に、何一つでも露國風とか、露國質とか、クレチヤ風とか質とか、御咄致しましたがそんな事を私共は思ふ事も出來ん、故に無論云ふ事をも知らんのて御座います、私はニコライ大主教より三十余年も御教の話を聞き、又神靈一切の導きを受けましたが未た曾て唯の一つも國質とか國風とか云ふものを教へられた事もなく、又あり得へき筈も御座いません、古より正教會はそんな物質の事や、他の事か傳はらんのて御座います、若しや萬一にもそんな事を傳ふる者かありましたならは夫は眞の神様の正教會の人では御座いません、實に智識の淺薄なる人か、外國の教たとか日本の國體に合ふの、合はんのと云ふは、眞に奇怪極まる說話でございます㊂そして此の唯一て公教會て、ある正教會は、又聖なる教會て御座います、夫はどう云ふ譯かとならば主イイススハリストスの福音を聞いて、神様の義子となりたいと思ふ人は、學者でも不學者でも男も女も、如何なる人でもたとへ罪惡に沈みし人でも、正直にして毫も良心を欺かす

眞心から前非と惡慾とを痛悔して、及ふ丈できる丈、正しき信仰の途に依りまして道德を修めんとする方々は皆主イ、ス、ハリストスの福音の活ける御言と、御聖神の大なる御恩寵に依りまして、更らに新たになり聖になるので御座います、正敎會は、萬民を福音の光りと、御聖規と、御聖佑とを以て聖となし、義となすので御座います、此れを一寸たとへて申さは、我か帝國民は、何れの國に旅行するも、何んの義務にあるも、憲法に順從し、國法の命する所に從ふて正理に、公道に渡生する者は、悉く國家の良民て御座いませう、良民は大臣斗りでない、博士や學士や、軍人斗りてないので、苟も皇恩に浴しつゝ、百般の業務を務むる所の凡ての男女は、勿論老幼も悉く帝國民て御座いませう、丁度サウ云ふ樣に、正敎會も充せ給はざる所もなき御聖神の御鴻恩か敎會に溢れて居る、故に正敎會に神樣か御定めあそはされたる成聖の法や、成義の眞理に、衷心より自由にして從ふ時には、凡ての男女老少皆な聖とせられ、義とせらるゝのて御座います、夫故聖敎會と申すのて、聖人斗りあると云ふ意味では御座いません、勿論全敎會には神聖なる方々も常々あります、が、聖敎會と申意義は人を聖とする敎會てある事を信するのて御座います㊃又尤も謹て惡魔なる邪神の惡謀と、狡猾と、僞善と、詐僞とを破るか爲めに特に使徒の敎會である事を信認して居るのて御座います、夫はどう云ふ譯かとなれは、何者か我か敎會は、唯一である、公である、聖である、と巧みに申した時に、其僞りを確證するか爲めに、尤も有力なる

者は夫では使徒の敎會であるかとの一言は此の詐謀を顯はすの光りて御座います、使徒の敎會と申事は、十二使徒方か敎られたる儘にて、一切の人意を加へ又は變更し或は種々の改造などをなさん所の眞正なる正敎會であつて、直く眞の神樣か御設立あそはされ、御聖神か常に充せ給ふ所の敎會であると證明する事か此の使徒の二字を以て萬民の前に明白で魔鬼の詐謀か忽ち破れて了ふのて御座います、此はたとへて申さば、誰かアジヤ人で日本語も自由に用ひ、日本の憲法をも法律をも能く知りて居りても、萬世一系の皇帝の臣民てあらざる時は、確かに日本人で御座いません、此は眞似も出來ん事て御座います、非正敎會徒も色々樣々の理屈をならべて弱信の徒や、智識の淺薄なる人々を惑はす事が出來ませうか、此の使徒の敎會と申所の活歷史は、正敎會外の人々の眞似の出來る事では御座いません、ハリストスの敎會は一であるべきと申たならは、異說を唱道する輩も、又一であると申しませうハリストスの敎會は聖であると申したなら、又同しく異說を云ふ者も我か云ふ所は聖であると申しませう、ハリストスの敎會は公であると申すと異說を主張する人々も又同しく公であると申しませう、此に於て神聖なる聖書の智識に暗き人々や、ハリストス敎を聞かざる人々か、何れが眞何れが僞と迷ふのて御座います、此皆詐謀の父たる惡神か、神樣の御撰民をも迷はさんとする手段て御座います、其時に此れを明證する者は獨り使徒の二字て御座います、以上の御咄を今こゝに一言にて申さば、眞理は唯一でありて、

無論神聖である、故に又其眞理は一でなければ必す聖でない神聖なる者は必す唯一であり て此唯一と神聖とである眞理は、云ふまでもなく公であつて、公でなければ全世界の道て ないのてございます、此の唯一で神聖で公明である眞理と道德とを確實に、同一に、毫も 誤りなく全世界に傳ふて至る所に神様の御國を開設したる方々は、主イ、ス、ハリストス か自ら御撰立て遊ばされたる十二使徒で御座います、そして主イ、ス、ハリストスか常に 此の十二使徒と見えずして奥妙に偕になされて、御聖神の大能を以て此の方々と偕に敎會 を御立て遊ばされたのて御座います、其眞意は父神の御聖旨は、父神と御同榮の獨一の御 方イ、ス、ハリストス獨り此を御明證遊はされたる通りに、主イ、ス、ハリストスが偕に なされたる十二使徒方のみ、全く唯一で神聖で公明である敎會を設立する權能を主イ、ス、 ハリストスより受けて居つたのて御座います、しかし此の時代にも十二使徒方に敵して ハリストスの敎會と名つくる者を勝手に立て様と思ふたる僞善者か中々多くありたのて御座 いましたか、皆亡びたのて御座いますそれは使徒敎會でなければ此の唯一にして聖且公の 三つを有せんのでございます、なせと申すにハリストス敎は、理論てなく實際に永遠の生 命を得る活ける宗敎であれは、無論其唯一も、神聖も、公明も、主イ、ス、ハリストスと 偕にして、御聖神の大能を以て、實際なる聖德に於て顯はれなければならんのて御座います そして此の十二使徒方は萬世不變の聖規を御聖神と偕に御定めあつて、此地上に神様か御

開き遊はされたる敎會を神様の御聖命の通りに御開きなされ、又御守りあつたのて御座い ます、尤も主イ、ス、ハリストスは其御弟子方に、其通りに守り、且つ開く事を御聖命あ つたのて御座います、そこて私共は、眞の神様の神聖なる正敎會は一で聖で公で使徒の敎 會である、此か神様か萬民を御救ひ遊はさる敎會であると信じて居るのて御座います、そ して此の信認は聖書と正敎會の確信と、人間の道德的智識とに於きまして明白なる眞理で あれば此を以て神聖なる宗敎心を全く滿足すべき活る信と理解して居るのて御座います、 以上は敎會の歷史的の外様を御咄し申上げたる事てすか、其意義は中々深き事で、神様か天 地萬有を御成造あそはさる時よりも、幾層倍御聖慮か深奥でありしか比べ様も御座いませ ん、此を一寸たとへて申せば、父母か子を生む時の心配と其後子女の敎育より子女の目的 と世渡りの心配とはとても比べ様もないことと、まあ一寸似よつた様であるとでも申べき てせうか、なせなれば神様は天地を御造成なさる時には、一つの御詞であつたのですが、 敎會を御開設あそはさるか爲には獨生の御子か人性を御受けあそはされたる事より始まり まして、御聖神か御降臨遊はさる等、如何に御深慮か顯れしか知れんのて御座います、夫 れ許りでなく此を受くるが爲めに萬國萬民を、冥々中に御支度遊ばされたる事等を、合せ て考へましたならば、此の敎會なる天國を地に御開設遊はさる御聖旨の奥妙を少々は解り ませう、又此の一、聖、公、使徒の敎會を例へて申さばさも聖ノイの大洪水の時の舟の様で

す彼の舟に在る者は悉く大洪水より救はれた樣に此教會に適當に入る者は必ず永遠の救を得るので御座います、又王は皇太子の爲に開かれたる婚禮の座敷にも譬へられてあります、夫は正教會には、神靈上の一切の福も喜も慰も樂も悉く完備してあるからて御座います、又教會を獨一の母とも名付られてあります、夫は教會は父神の御聖旨を能く了解せしめ、又行はしめて永遠に天國を嗣がしむるからで御座います、又正教會をは此地上に於て譬へて視る時は一國の樣でも御座います、一帝國には天皇あり、憲法あり、政府あり、人民あり以て一國を爲してゐる樣に正教會は獨一にして三位で居らつしやる眞の神樣か、親しく御統治あそばさるに付きまして、三つの神職位の者を御立て遊はされ、そして其職權を有する者は聖福音と聖使徒教會の聖規を以て自らを治め、又信者を治むる者で御座います、此の治め方は凡て屬神的で永遠的で、地方的又は地上の政治と混同すべき者では御座いません、正教會は主イヽスヽハリストスか我爾等と偕に世の末迄あると仰ある通り、常に視ずして主イヽスヽハリストスは御聖神と共に御自分の教會にゐらつしやるので、如何なる强敵も不眞理も此を亂す事などか出來ん者て御座います。然るに此の事に付き詮しつめて一つの疑問か此にあるかも知れんと思はれます、夫は凡て世界の萬般は、萬有進化の理法にもれんのて、何事も改良進步の世に、獨り教會のみ萬世不變と云ふて殆んと二千年も動かさんで其法を守るとは俗に保守て、全く進步的てないと申すでせう、此れは確かに歐米の新教徒の中に、又

は或る學者中に行なはるゝ論て御座いますか、此れは凡て世の改良進步とは外てない、私共か萬有に對するの無智や不法が、段々と減ずることて、實に改良進步すへき事は人爲的人事である事で、其改良進步とは、どうしても天然法や、天然物の事では御座いませんてせう、たとへは天動說か、地動說となりても、太陽系に何の變化もありません、然らば況んや天地萬有を造成し給ふたる神樣か、御確定あそはされたる神聖なる天國、此の有形の天地よりも高尙なる正教會に於きましておやで御座います、夫れを彼れ此れと申すのは、全く一、聖、公、使徒の教會の教理も、教會の組織も、目的も、知らんのて御座います、正教會の進步は、無限を期して居るのて、段々御咄申上たる事ても御了解てありませうか正教會は如何に萬民に長速の進步を催促するか知れんのて御座います、夫でも誰か正教會は世の進步と同道せんと云ふならば、願はくは其箇條を明らかに擧くべきて御座います、若しやそれをあけずに申す時は謗謗に過きんのてございます。若も亦誰か强いて正教會は世の進步と同道せんと云ふ點をあくる時は、信仰の箇條あり、定理ありて、自由に聖書を解する事を許さすと申事と、正教會にて神樣に務むる禮儀か、昔の儘であつて尤も嚴かなる事、立派なる事とを、彼れ此れ云ふ位で御座いませう、そして其人々か申すのは正教會は千年も二千年もの昔の禮儀の儘に、神樣に務めて居る、此を輕便に改良する勇氣と決斷がない、神樣は固より外儀の立派なる事を御喜あそはさるのてない、心か大切てある、精神

さへもきれいで立派でさへあれば外儀などは無くても宜しいと申すので御座います、此の誤解を此にあけませう㊀福音の眞理の光りは神聖なる道德なる寶器なくては顯れん事は已に御了解て御座いませう、其通り敬神の誠意、誠心は神聖なる禮儀の外に顯れんので御座います、誰れか花と葉を草木より取りて捨てしなら其人は果實を得ん斗りてなく草木を枯らしてしまうてせう㊁世は神樣に務むる事は出來る丈器したい輕便にしたいと云ふて、肉身を飾る事、肉身に務むる事に美を盡さんとし、善を盡さんとするは大なる誤解て大罪の源泉て御座います、全能、全美の神樣に出來るたけ心も外も完美に務むる事は如何に嬉しくて、樂しき事で御座いませうか㊂正敎會の神禮は主イイスハリストスか御立て遊はされたる者で誰れか、又は何人も此を變更するの、改造するのと申權も、智識も、能力も、ないものて御座います、彼の舊約の時にモイセイの律法を變更する事は、聖モイセイに律法を御示あそはされたる眞の神樣であつて後ちに人の性と結ばり給ふたる神樣の獨一子主イイスハリストスの外、誰れも權かないのて御座います、今も亦神樣たる主イイスハリストスか御定め遊はされたる事は、主神樣たるイイスハリストスか再度世の末に御臨みありて、公けなる御審判が終り、新天新地か開くる迄は、誰れも此を變更したり改造したりする事か出來んものて御座います㊃正敎の奉神禮は、深く調べて見ましたなら、皆善美のみで、何一つも信仰と道德とを佑けぬ者かないのて御座います㊄福音の眞理の如きは

愈々深く進んて研究するので、正敎會は常に此れを喜ひつゝあります、素より舊新兩約聖書の眞意を益々發揚する事は、眞正なる神學者の大に務むべき事で或聖人は神學上に於て一の眞理を發揚する者こそ眞正の神學者であると迄申された位て眞理の研究に盡力しある事は明らかて御座います正敎會は神聖なる自由の解明を喜ふも無智的自由の誤解を許さんのです㊅以上申上たる通りで、正敎會は進歩的てないの、改良的てないのとは、謗謗に過きんので御座います、却りて正敎會は眞理に於て、日々に月々に精しからん事を務め、又喜んて此れに向ひ、道德に於ては、全能の神樣に肖ん事を希望して一分時も止まる事を望みませぬ、實に非常なる速力の進歩を以て正敎會は活動して居るのて御座います、尙又後ちに此の事に付きて御咄致しませう、今一つは敎會は唯一で神聖で公明で使徒敎會であると申事を確實に調ぶるともせん、學者方なとは、何ハリストス敎か幾派もあるそして此の宗派では、彼の宗派を異端と名つけ、彼の宗派では此の宗派を異端と名つけて、互に爭ふて居るから何れか本當であるか解らん、やつぱり佛敎にも色々の宗派かある樣であらうと申して居るのですか、此は正確なる歷史と眞理を調べん爲めて御座います、私は此の事に付きまして、此に今色々とロマ舊敎たの、新敎たのと分れてある事の根元を大略して申上ませう㊀主イ、ス、ハリストス御降誕後一千〇五十一年に正敎會より、ロマ敎會か斷然分離したのて御座います、其分離の根元は、西ロマ敎會にて我儘勝手に眞理の光りに人意を

加ふて、信仰を傷害し恣に法王を立て、全世界の教會を自分に從はせんとする不法の働きを始めたので御座います、やさしく申せは、神聖なる神權と、此の世の帝王の權とを兼ねやうとして、主イヽスヽハリストスの御聖旨に全く逆ふたので御座います、東の方に堅立してあつた正教會は、西の教會の斯る不法を責めて速かに改むる事を勸めしも、西の教會は外部の盛大と、外部の權力を賴んで却りて、反對して正教會をも全く此の法王の暴權の下に服さしめんと計つたので御座います、故に東方の正教會は斷然之れを退けたので御座います、夫れよりロマ教會は益々不法を增して遂に恐るへき所の歐州の暗黑時代を造りましたので御座います、此れより殆んと三百年間のロマ教會の歷史をありのまゝに讀みしならは、教會の暗黑と醜體とは意外です彼の英國の有名なる文學宗教凌轢史を一見しましたならは實に驚くの外はありませんてせう、私は又ロマ教會の人か作つたロマ教會史を見ましたか、夫にさへも最早大改革か必要てあつたと明證してありました、斯る當時の文學と宗教との爭論や政府と宗教との爭なとは斷じて眞正なるハリストス正教會より出たる者て御座いませんので、ハリストス教の名を無理に用ひたるロマ教會の法王と其輩下との無智識と傲慢とより出た者て御座います、今も惜むべきかなロマ教徒には多くの不眞理かあるので御座います、其一つを申さは法王には不可誤權かあるなと妄信して此を定理として居る如きは、實に驚くべき事て御座います、遂に彼の宗教改革となりてルーテルやカルフェンなとか顯れて、歐州の大禍亂となつたので、此の歷史を讀む人々の膽を冷かにするのて御座います、不幸にして我が帝國の外部の文明は、此のロマ舊教徒と、其改革派との子孫より輸入せし故にハリストス教とは此の如き恐ろしき弊害もあり、此の如き恐るへき爭亂もあつたのかと驚くのて御座います、私なども正教會の歷史を聞かんて、此のロマ舊教や新教などの爭亂を見ましたならとてもハリストス教を信し樣とは思はれんてあつたらうと考ふて居ります、此の法王の暴慢、不法の暴權を新教の破りしは、甚だ善き事と思はれまするかさも暴を以て暴を破ると云ふ樣の手段に出でロマ教會の不法を破ふると偕に俗に角を直さんとして、牛を殺すの奇禍に陷いつたる事こそ誠に惜むべきて御座います、彼の改革家と稱する人々はロマ教會にある所の善と惡とを區別するの明識なく、神樣が御定めあそはされたる神聖なる聖規、聖禮、聖法、と法王と法王の輩下か無神學と傲慢とで此に付け加へたる者とを識別する所の御聖神より出つる神識がない故に遂に氣儘勝手に一つの法王を破ぶりて千百の小法王を立つる奇觀を世に始めたので御座います、素より主イヽスヽハリストスの正教會に、色々の宗派のあり得べき筈もないとは段々御咄申上た事でも明かて御座いませう、彼のロマ教と分爭して小法王を多く立てたる者が、新教各派てあるので御座います正教會は主イヽスヽハリストスか御立てあそはされたる通りて、一、聖、公、使徒の教會てあるので、其歷史を以ても、聖書を以ても、神禮を以ても、道德を以ても何んの方面よ

り調べても尋ねても一點の汚れも、傷も、迷も、不眞理も、なく悉く光明で、神聖である
ので御座います、尙も此の事に付きて御調べありて、眞理を御確識ある事を深く希望する
ので御座います㊁そして此の一、聖、公、使徒の敎會に御聖神か、聖使徒方の按手の大禮
を以て、主敎と、司祭と補祭との三つの神職を御立て遊はされたので御座います、そして
此の主敎は相續きて主敎を立て、司祭と補祭とを按手の大禮を以て立つる神權を有して居
らるるので御座います、此の三つの神職の人々か正敎會の敎役者として、萬民に福音を述へ
眞理を解明すると、信者を成聖する神禮を行ふと、恩寵敎會の眞性質てある神聖なる祭禮
を行ふので御座います、實に正敎會は整々たる秩序を守り、常に良心よりの順從と、智識
の清き謙遜と、神聖なる平和と、潔淨潔白の愛々と、猛からぬ尊嚴と、柔弱に流れさる和
睦とを以て治めらるゝ者て御座います、そして正敎會は天星の無數を以て天を飾られてあ
る樣に多くの聖者義人の善德と、功勞とを以て飾られて、主イヽスヽハリストスの花嫁た
る榮冠を頂きて居るので御座います、又智勇兼備なる忠誠の大將は國家を泰山の安きに守
る樣に、諸聖人、義人は正敎會の干城となりて、惡魔の不法、不義、狡猾、僞善を悉く洞
觀して此を破り以て、神樣の福音の眞を、毫も陰さず、傷はず、人意を加へずして萬世に
傳ふる神聖なる至大命を行ふので御座います、そして正敎會には無上の大權は、唯獨り全
地より正敎會の主敎方か公會なされて、決議した事の外に新なる權かないので御座いまし

て皆福音の眞に相僧に從ふので御座います、正敎會には無論法王なく、如何なる人でも主
敎でも福音の眞に逆ふて其を改めん時には其神權をとり上けらるゝので御座います、實に
正敎會は悉くの信者、皆獨立の信仰を以て居るので御座います、さも一の太陽を萬民が同
一に見る樣で獨一の御神性で唯一の御神體で三つの御位ある眞の神樣を確信し、獨生子の
御神位か人性と結ばり給ふたる眞理は、勿論永遠の救の爲めに必要の信仰に至りましては
主敎も凡て信徒も男も女も一點の違ひなく、同一にて、神樣の御尊前に悉く獨立の信仰で眞
の神樣の外、何者も何人も、此の神聖なる信仰の上に權がないので御座います、皆な偕に
活ける唯一の信を以て、眞の神樣の尊前に立つて居るので御座います、正敎會の凡ての信
者は皆神聖なる自由を以て居るので御座います、救世主は明かに「爾等眞實を識らん眞實
は爾等を自由の者となさん」又「我誠に誠に爾等に語ん凡罪を行ふ者は罪の奴隷なり」（イヤアン）
（福音八章三十二ト三十四ノ中）と仰ある所の神聖なる自由と自主の者て御座います、そして此の正敎會の信者
は、何れの國民でも、何れの人種ても、如何なる職にあるも、毫も衝突とか、妨害とか云
ふ樣の事は御座いません斗りてなく、何處に居りても、光りとなり、鹽となり、香味とな
るべきて、常に福音の福音たる神力を自由に發揚する事か出來る者て御座いますのです
○以上の理由ですから、正敎會の信者となる事は、外て御座いません、天の眞の父神の御
國に歸る事て、今迄ては却りて外國とも申すべき神靈の暗き國に居つたのて御座います、

かの安心立命を尋ね〳〵てつかれ果て何をも得んてあつたので、それは外でない神靈か光明の父神に離れて此迄神靈上の遠き外國に居りた故て御座います、尚又此の正教會はアタムの地堂よりも高尚で神聖でありて此の教會にて全く聖せられた方々は、直く天の寶座に行かるゝのて御座います、又は直くに神様の御國に行かれて、復活の時の完全なる歡喜と萬福とを待つて居るのて御座います、今此て一言で教會の歴史を申上ますアタムより四千年間先祖方の教會で、後ち聖モイセイの時より一千四五百年間律法の教會であつて、其後今より一千九百餘年前に始めて恩寵の教會か顯はれそれより世の終りまて此の地に堅立して以て、神様の御公撰に應する萬國の萬民を成聖して、以て至大の公審判の時、天地の大變革の時、萬民復活の時に、善惡の運命の確定する時迄に至るのて御座います、そこて皆様か此の恩寵の教會は主イヽスヽハリストスか御撰立あそばされたる十二使徒の時より、今日迄世界に活動せられたる正教會の歴史と、諸聖人方や義人の歴史とを神聖なる福音の光りに照されたる正しき知識を以て御覽になりましたならば實に神様の御鴻恩か正教の信者を聖とし義とし給ふ事は、驚くへき程宏大で大數である事を明白に御解りになりませう」

○こんど御咄し申上くる事は、只今御咄した事につきてあるので、神様か御建てあそはされたる正教會には、私共の神靈上の事は申すに及ばす、一切信仰上の事と、道德上の事に付きて、全く備はつてあるのて御座います、そして尤も大切なる神聖の大禮か七ツ御座います、

此れを七ツの機密と申ます、夫は此の七ツの聖禮は、神様か御確定あそはされたる者で、其御目的は、正直にして神様の御救にあつかりて、天國の子供となり、永遠の萬福なる生命を得たいと望む人々を成聖し給ふか爲めに御定めあそはされたる者て御座います、私共人間は見ゐぬ神靈と、見える物質なる身體と、二つの者てある、故に見えざる神様の御聖神の御鴻恩も亦た見ゆる御聖禮を以て賜はるゝ様に御制定あそはされたのて御座います、其見える御聖禮に依りまして、神様の御聖神はどーゝ云ふ鹽梅に御働きあそはさるや、其事はとても私共か物を手にとりて見た様に解らんので、又解る事の出來ん者で御座いますか、其眞理を確かに信して此れを受けまする時には、其人々に必す成就する所の妙用、又は神妙をなんとも名つけがたき故に此を機密と名つくるのて御座います、又は奥義、又は秘義とも申のて御座います、斯る神聖なる大禮か必要である事は、私共人間社會の倫理に於きましても明かに見える所て御座います、凡て其意義か重大である程、其儀式も亦た立派てあり て、其意義に應する様に顯はす事は、普通の道理で御座いませう、そして外に顯はるゝ禮義かなき時には、内に充る意義かない事も皆知り居る事で御座いませう、實に外に顯はる神禮なき時には、内に充つる所の御神恩の充べき者なきに依りて、其恩佑も亦たなき事は明かて御座いませう、此は凡て萬有の定法と申しても宜うございます、若し誰か外儀は必要でないと申すならは、其人は最早却りて夫を思ふ時に、已に〳〵其外義の内容である眞

正の意義を受けかたき者であると自ら顯はるゝ者で御座います、眞正なる意義のなき外儀や、虚禮は、實に僞善でなくんは虚妄であると同樣に、此の有形の身體を有しながら、外儀なくしても神樣の御鴻恩を充分に受けらるゝと思ふ事は、空想に過ぎんので御座います如何に神聖で眞理の公明で神靈の堂奥迄を盡く照す所の福音も、口と舌とを以て空氣の波動を起す所の規則によらなければ、人々に感する事か出來んてせう、或は、筆墨紙文字なる有形によらざる時には、其奥義は人々に了解か出來んでせう、故に妄りに神聖なる外儀を彼れ此れと否議する人々は、神樣の御尊嚴と神樣は萬事に於て整々と光榮とを御喜あそばさる事の御聖旨あるを了解する事を好まんからて御座います、實に先きにも申上たる通り、神聖なる道德は神聖なる福音の寶器であると同樣に、神聖なる御神恩は、神聖なる大禮を寶器とし又は夫と共に信者に神靈と身體に感動々作せらるゝもので御座います、そして段々御咄申上たる通り、新約なる恩寵の教會には、勿論、舊約教會で主イヽスヽハリスドスの至聖至大なる十字架の神聖なる献祭を預しめ象られたる所の一切の外儀は勿論の事凡て唯外をのみ清めんとしたる小學的外儀は全く廢されたので御座います、新約なる恩寵の教會には主イヽスヽハリスドスは更らに神聖尊嚴で實體である神禮を御設立あそばされたので御座います、此れ深く注意すべき宗教上の至大事件でございます此より正教會にある七つの至聖なる聖機密の神聖なる御功力のことを御咄致しませう此の七の聖機密の中の

第一は洗禮の機密で御座います、此の神聖なる至大の機密は、誰れ彼を問はず、何に人でも福音の教を聞きまして、其眞意を了解して、全心の信を以て神樣の御救にあつかりたいと願ふ人々は、此の機密に依りて新たに生れるので、その神靈も身體も見える所にでは何にも變つた樣てなくも、神樣の御聖神の大なる御能力に依りて、全く生れ更るので御座います、此は主イヽスヽハリストス全能の神樣の活る御言で御確定ありました事で此に一點一毛の違なく斷然、確然、更生するので御座います、主イヽスヽハリストスは「我誠に誠に爾に語ん人若し水及ひ神(御聖神の事)より生れすは神の國に入るを得す」(イオアン福音三章五節)と仰あり。又た十二使徒を全世界に御遣しあそはさる時に「爾等往きて萬民に教を傳へて彼等に父と子と聖神との名によりて洗を授け彼等を教へて我か一切爾等に命せしことを守らしめよ視よ我恒に爾等と偕にして世の終末まて在るなりアミン」(マトフェイ福音二十八ノ二十)と仰せあり又「信して洗を受くる者は救はれ信せさる者は罪に定められん」(マルコ福音十六ノ十六)と仰あつたので御座います、斯くも全能の神樣は明々白々に生命に入るへき途を御定めあそはされたので御座います、此に信してと申事は、神樣の御存在や御神性や、御神位のことより、人間か道德法を犯してより良心か如何にしても自ら死の宣告より免るゝ事か出來んか、唯主イヽスヽハリストスかす字架に御上りあそはされて、私共の萬罪萬惡の代りに御立なされて、以て御公義の義罰を全く御消し下されたる所の神樣の深き御憐憫をよく〳〵

心に信服し、又此の聖機密を受くる時には、其時迄ての悉くの不法も不義も罪惡も神樣の御公義の前に赦され消滅せらるゝ事の眞理を解りし人々の事て御座います、實に主イエスハリストスか三日目に御復活あそはされたる御聖業に依りて洗禮の機密を受けし人々は、其時に更らに罪の身か滅されて、以後は義の爲めの身體となり光りの子と生れ更るのて御座います、私共は世に生れましたのは私共の自由には殆んとかんけいか御座いませんか、此の至大なる機密に依りて神樣の國の爲めに永遠の生命と生れ更るのは、獨り神樣の御鴻恩斗りてなく、私共の自由の意旨か尤も深く關係か御座います、併し其の生れ更ることは、無論神樣の御聖神の御力によるのて、私共の方よりは正直なる信仰と決定の痛悔と、清き希望と、深き愛とを以て神樣の御公愛に向ふ事か、天國の子となる種とも申へき要件て御座います、若しや他意かありて此の機密を受くる時は、公罰を受くる者て御座います、此の御神禮を受けて、生れ更りて夫より主イエスハリストスか十字架にて御公開あそはされたる神聖なる光れる道德の聖路を通りて、神樣の御國に行くのて御座います、私共は謹んて此の御洗禮なる機密を受くる時には、此の身體か水の中に入る時に、御聖神の御能力は見えすして其洗を受くる人々の神靈をも身體をも更らに人々の自由を强制し給はすして一切新たに變化し給ふのて御座います、此の御洗禮の御神力によりまして、此を受くる人々は、其時迄あつた良心の責めと、良心の耻と、段々と遺傳し來たる所の人性の壞れも、

汚れも悉く洗ひ去らるゝのて御座います、此の時に主イエスハリストスか十字架上にて萬民の爲め御流しあそはされたる尊貴なる御寶血か、私共を神樣の御公義の前にある永遠の死罪より救ふのて御座います、此の時に御聖神は此を受くる所の人々に新なる天に屬する所のまるて別なる神靈を入れ更へて下されたるかと云ふ樣に變化するのて御座います、此の時にはハリストスに依りて新たに造らる者て此て天國の子となるのて御座います。さて此の洗禮の事に付きましてもロマ教と新教とは色々の異說や異なる外禮を姿に立て居るのて御座いますか、段々御咄申上たる通り、正教會は主イエスハリストスか御立てあそはされ、聖使徒方が行なはれたる通りに、其儘に此を行ふのて御座います、私は今此て色々の異なる說や、異なる外儀の事を正して御咄申上くるでなく、私共か確かに信して居る事を御咄申上くるので御座います、そこてどーでせう私共の此の世に生れる事も、實に奧義の奧義で、機密の機密で神聖で御座いませう、とても〳〵人間の工夫や考へや、思付や發明でなく、人間の智識より、はるかに以上の事で御座います、夫で私は先きに御咄申上ました事を今此て合せて御了解になる事を望みます、私は先きに全萬世の萬民の正直の願と、衷心の希望と、眞心の願は外てない、私共は私共の此の儘で一切新になりたい、此のきたなく汚らはしくした所の私共は、此の私を失はんでありながら、實に完全全備の私となりたいと云ふ事にあると申上ましたか、妙に又此の萬世萬民の衷心の希望と歎願は慈

くへき不眞理の中に顯れて居りました、それは何かとならは俗にこんとれは立派な所に生かわりたい、實に貴き光榮の人と生れかわりたいと云ふことや、此の身に再度神靈かくると思ふて居た事なとの不眞理の中に、知らす〳〵人性にきりつけられてある至大なる希望か、其儘に顯れて居りました、此の人性の至大なる希望即ち私共か此の儘で聖となりたい、義となりたい、完備の人々となりたい、道德を全く修めたいと云ふ人性の至大力は、此の御洗禮の機密に依りて全ふする事か出事るのて御座います、諸君よ能く御氣を御つけになりて御覽なさい、凡て全能、仁慈、無量の神樣は、一切の六敗事は大抵私共に代りて皆行なつて下さるのて御座います、そーて私共にはやさしき事や、容易すき事を行なはせ給ふのて御座います、此の私共萬世の萬民か歎願して止まん所の實に六ケ敗願をも、斯くもやさしき御洗禮の機密を以て成就して下さるのて御座います、神樣はもつと〳〵何にか六ケ敗御規則を御立てあそはされて、此の規則を守れ、此の規則て爾等を新に造りかへると仰ありても眞に天國に救はれん事を願ふ人々は御受けなさるてせう、然るに神樣は斯くもやさしき御聖法を御立あそはされて、人々を一切新たに御改造あそはさる事は實に宏大なる御鴻恩と御容智と御仁慈てあるのて御座います、此を以て萬民を御救あそはさる御仁心のなんとも申上ようもなき程有難きことを悟らんけれはならんてせう、又此を以て惡敵の惡手段と狡猾とをも悉く御破りあそはされたのて御座います、併しなから私共か外に見える所の斯くもやさしき洗禮の機密を以て、天國の子と生れかわると云ふ事や、唯外禮のみを思つて心を深く注かざる時には、神樣に對し奉つりて誠に畏れ多き次第て御座います、私共を斯かる御神禮にて新たに御造りかへ下さる法を御定めあそはさるか爲めに、畏れ多くも神樣の獨一子で居らつしやる、萬々の天使の王たる主イ、ス、ハリストスか十字架上に慘殺を御受けあそはされて、其寶血を御流しなされたる御聖功を、私共の萬罪萬惡の公罰とし償となされて以て、此の御洗禮を御立てあそはされたのて、見ゆる此のやさしき神禮は、恐れ多くも驚くへき御苦難を以て御定めあそはされたのて御座います、實に此の御洗禮の機密にて、私共か新たなる御造物となる大なる喜と福とは、至聖三者の如何に深き御思召てあるか知れんのて御座います、此の御神禮は人間か再度母の腹に入りて生れかわると思ふよりも六ケ敗事で御座います、そして此の神聖で尊嚴で實體である所の洗禮の機密を受ける時には、丁度主イ、ス、ハリストスか御洗禮の時に父神の御聲かあり、御聖神か顯れ給ふたる樣に此の御洗禮によりて敎を信する人々か、天の父神の愛する所の人々となるのて御座います、私は幾度も申上ましたか、神樣は人の尊き、自由を壓迫なさいません又は强制なさらんのて御座います、故に此を受くる人々と、此を授くる人々か深く〳〵謹まなけれはならんのて御座います、誰か若し正敎會か敎ふる所の信仰もなく、希望も、愛もなく、なにか他の意味で又は他の地上の慾望の爲めに此の至尊なる、至聖なる、神聖の機密

を受けましたならは却りて、神様の御公罰に當る者となります、夫故此の至聖、神聖の洗禮を何にか社會に行はるゝ入會式とか、入門とか、入講とか云ふ様の考んかひの人々や、教會の教理にあまりに暗くて未た信仰の箇條も知らす、祈禱や、聖誡の大意をも知らざる者に、此の尊貴神聖の機密を授くる教役者は、實に主神様に不忠で人々に愛と敬とを有せざる僞善者でなくんは、無智の人々で御座います、斯る人々は神様の公罰と惡魔の笑に應する者で御座います、又まるで良心に欺きて此の機密を受くる者なとは、無論逆臣か忠臣のまねして天皇の御前に出て、却りて罰を多く受けしよりも恐るへき事て御座います、正教會にて教會に入らんとする人々には、第一眞理を明解し、第二福音の眞に背く一切の迷暗を智識よりとり去り心情よりは凡て惡魔と惡習慣との惡意慾念を盡く捨つる事第三に神様の義子となりたい堅き希望、第四には、如何なる事あるも神様に背かぬ決意と、惡神に屬せし事を一切捨つる事、第五自由の意旨を以て、神様の御國に救はれたいと云ふ願を、神様の尊前と衆人との前に誓文を讀て誓ふのて御座います、此て始めて機密を許さるるのて御座います、此の通り正當に此洗禮の機密を受けたる人々は神様の尊前に、アタムの無罪の時の潔淨潔白と同様になり、主イ、ス、ハリストスの親愛の弟妹となり、實に神様か永遠より御公撰あそはされたる嗣子となり、神様の子たる權を受けたる尊き人々となり、此に於て悉くの惡魔を足下に踐む所の權ある者となり、天使方と共に永遠に天國に居る者となりて、此れより主イ、ス、ハリストスの十字架と御復活と御昇天とに盡く分ある者となり、其御鴻恩を受くる者となりますのて御座います、此至聖なる洗禮の機密は、再度行ふ事か出來んのて御座います、此の機密は主教は勿論の事司業方は此を行なはるゝのて御座います、又は教を聞き居りし人の中に何にか急病でもありて、司業方を呼ふ暇もなき場合には、凡ての信男信女か此を行ふ事ができるので御座います、此聖機密を受けし人々は正教會の信者で此より一切の事を偕にする人となりて、凡ての他の機密を受くる事か出來るのて御座います、此の機密を受けん内は他の機密は無論受けられんのて御座います

○第二の機密を博齋機密と申しまして、此は洗禮の機密を受けて新たに生れたる人々に御聖神か御降臨あそはさるのて御座います、此の聖機密を受けし人々に此より常に御聖神は密々偕になされて、其人々の信仰を堅め道德を完全に修むる様に、智識の光明になる様に御佑導あそはさるのて御座います、此の神聖なる機密は文字に見ゆる通り齋を傳ける御神禮て御座います、洗禮を受けし人々に、司祭方は神の恩寵の印と申しなから、聖齋を傳けるのて御座います、其時に御聖神は洗禮にて生れかわりし人々の神靈の堂奥は申に及はす、全神靈に充滿し給ふて、天の完美の喜を其全神靈に充せ給ふのて御座ります、アタム犯罪以來此迄神靈の底の底迄て罪の汚と慾の臭氣と、逆と、傲りとの魔鬼の濁る油にて油塗られて奇怪千萬なへんな質か天性の如くに混入して、とても取除けんであつたのて御座いま

したか、御洗禮の機密に依りて此をさつぱりと洗はれて、新たに生れた人々に、こんとは天の光れる溫柔と、謙遜と、聖潔と、平安と、喜悅と、の神聖にして何んとも云はれぬ、香氣複郁たる御聖神の神質か神靈に充ちて、其神靈を神化する樣になるのて御座います、此の傳授機密の至大なる御神力は、先きに御咄申述たる通りあの百二十人集まつて居つた時に御聖神か御降りになりて、其百二十人かまるて別の人々となりて先きに弱くして中々罪や慾に勝つ事か出來ん方々は、直くに變化してあの樣の聖人方となられたる時と、少しも異ならんのて御座います、此機密は聖使徒方は按手を以て行はれたのて御座います、聖使徒行實八章十六節と十九章五節と六節に見えてあります、勿論神樣は何時も人間の程度と自由とを强制し給はんのて御座います、故に此を受くる人々の信と愛とに應して神樣の御聖神は夫に御鴻恩を御與へあそはさるのて御座います、丁度父母は二十歳の子供には夫に應したる愛と佑けを與へ、又三歳の子供には夫に應する助を與ふる樣なのて御座います、此の聖機密は、一度外行はんのて御座います、そして此の聖機密は主教と司祭方のみ行ふので、其外の信者は行ふ權かないのて御座います、此の後ちの機密も主教方司祭方外行ふ事か出來んのて御座います、此機密をたとへて申さは洗禮は人の生れと同樣で此はさも生れし子供か母の乳房に口をつけて生命の力を此より吸ふ樣に、此の機密を受けますれば、信仰なる淸き神靈の口を以て、御聖神より天の永遠の生命である萬福を受くる確かなる實質と實力を受くるのて御座います、

第三の聖機密は御聖體の機密て御座います、尤も此に第一、第二、第三、と申のは、唯此れを受くるの順序を申ので、勿論輕重なとを申すのては御座いません、此の御聖體の機密と申すのは、主イイススハリストスか捕はれなさる其日に十二使徒方と偕に舊約の大禮を御守りあそはされて、そして舊約の大禮は主イイススハリストスの十字架で終る事と、此より影なる、又は象りなる禮は、全く廢されて、更らに神聖なる、實體なる、神禮か立つべき事を御實行を以て御示あつたのて御座います、主イイススハリストスは神樣なる實體者、充滿者て居らつしやるので其神樣なる御自身か、神聖なる實體の御聖禮を御立てあそはされたのて御座いまして、其時に主イイススハリストスはパンを御手に御取りあそはされて、之を祝福なされて、そしてパンを御擘きあそはして、御弟子方に御與へありて「取りて之を食へ是れ我の體なり」と仰あり、又爵を御持あそはされて、感謝なされて、御弟子方に此を御與へあそはされて、「皆之を飲め蓋是れ我か新約の血衆くの人の爲めに流さるゝ者罪の赦を得るを致す」と仰あつたのて御座います、そして、「爾等此を行ふて我を記念せよ」と（マトフイ福音二十六章二十六ヨリ至二十八、迄の中ルカ福音二十の十九中）仰ありまして、此の神妙神愛の御聖禮を御立てあそはされたのて御座います、其時より此の御神禮は、十二使徒方諸方にて此を行ふたのて御座います、聖使徒パフエルは尤も精しくコリンブ前書十一章二十三節より三十四節迄に述へられてありま

す、此の聖體機密か、正教會に行なはれてあることを御咄して置かうと思ひます、今正教會にて行ふて居る此の御聖體の機密は、第四世紀の大聖人ワシリイと、聖金口イオアンとの御二方か聖使徒方の時より行はれてあつたのを書に明記して、一般正教會か行ふ樣になされたので御座います、此の聖金口イオアンと云ふ御方は聖大ワシリイの御記しあるのを少しつゞめた所も御座いますか、勿論神聖なる神意神禮には一毫の異なる所も御座いませんのです、又あるへき筈もないので御座います、此の神聖なる機密は主イ、ス、ハリストスか、十二使徒方に御咄あつて御聖定あそはされし事て、今申上た通り、此の御持あそはされたるパンを、此は我か體なりと仰あり、又爵中の葡萄酒を此は我か血なりと仰あつたので御座いますが、尤も此の時より先きに主イ、ス、ハリストスは御說教あそはされたる時に「我は天より降りし生けるパンなり此のパンを食ふ者は世々に生きん、我か與へんとするパンは即ち我の體なり、我か世の生命の爲めに與へんとする者なり」「蓋我か體は眞に糧なり、我か血は眞に飲物なり我體を食ひ我血を飲む者は我に居り我も彼に居るなり」と再三再四くりかへして仰あり「爾等若し人の子の體を食はす其血を飲まずば已の衷に生命を有たさらん」と精しく御咄あつたので御座います、此御教話はイオアン福音六章三十二節より五十八節迄に明らかに見えてあるのです、其時にイウデヤ人は此の御咄を伺ふと、どうして、此の體を食はれようやと申して、御咄の眞意か更に解らんて居りました、其時に主イ、ス、ハリストスは愈々益々精しく此の尤も大切なる眞理を御咄あそはされましたか、此の御咄は此時迄主の御弟子となりたいと思ふて居つた多くの人々の爲にも更に解らんてある斗りてなく、此の御咄を伺ふて此は余り六ヶ敷き事を仰ある御方であると考ひて御弟子になる事を止めた人々もあつたので御座います、尤も此の大禮斗りで御座いません、洗禮も亦同で實に機密で御座います、然しなから此の御聖體の機密の行はれし事は、聖書にも、聖歷史にも明かに見えて、あつてそして凡ての信者は、此の御聖體を深き謹みを以て受けて居つた事も尤も精しく、明らかて御座います、此の御聖體の機密を行ふ時には、今も主イ、ス、ハリストスか御行あそはされたる時と、悉く同樣にばんと、葡萄酒を用ゆるので此を御聖體、御聖血とする爲めには主教方又は司祭方は、正教會の御規定の通りに務めまして、其聖なる務めの時に、全能の御聖神の御能力を以て、其ばんは、御聖體となり、葡萄酒は御聖血となるので、實に嚴然、斷然、全然、變化するので御座います、素よりばんと、葡萄酒の色や味か變化するのでは御座いませんか、御聖神の全能の御力で全く此よりばんは、パンでなく、主イ、ス、ハリストスの御聖體で、葡萄酒は同しく葡萄酒でなく、主イ、ス、ハリストスの御聖血であるので御座います、又御聖體、御聖血の部分でなく、主イ、ス、ハリストスの分たるゝも斷して分るべからざる完全々備の御聖體御聖血であるので御座います、諸君よ、私共は同一の人間か、神樣の御鴻恩に依りて聖人となりても、

其神靈も、身體も、實質の色や組織かかわらん事を明らかに知る智識がありませう、さらば御聖神の全能の御力に依りて、此のばんは、パンの形の儘で、葡萄酒は、其色と味と其儘でありても、主イ、ス、ハリストスの眞體、眞血と變する事は、誠に信する事は喜はしき事で御座います、勿論此を受くる人々の信に依りて變化するのでは御座いません、正教會の御制定の通りに行ふ事と御聖神の全能力を以て變化するのて御座います、少々たとへて申上ませう、私共御互に赤子は母の乳を喜んて飲みつゝ其中より全人體を受ることは何人も疑ふ所ては御座いませんでせう、此神樣は萬有に生命を施し給ふ造成者で居らつして、かゝる神妙の御制定をなされたのて御座いませう、今亦主イイススハリストスより奥妙に御聖神の全能力を以て主の全性と變化したばんと、葡萄酒を受けて天の永遠の生命となるのて御座います、此は最も喜ばしき神樣の御聖愛の溢るゝ機密で御座います、此の聖機密の宏大なるは勿論無限で御座います、なぜと申すに無限絶對の主イ、ス、ハリストスの至尊の聖體聖血を領食しまして、密々主と一心一體一神となるのて御座います、少々此の事を思ひませう、實に此の事は神妙、神聖、神奥の御聖旨のある事で御座いますか、今も尚此の御深意を解らん人々か御座います、中々此の眞理は壊れし人性の考斗りや、又世と肉とにかこまれて居る智識や、物質的博識などで解すべき者では御座いません、神聖なる御聖神の御明示を全ふせし正教會の教に依りて始めて了解すべきことで御座います。さて諸君、

よ眞の神樣は、素より全能の御能力がありまする故何事でも御思召の通りになるので、若しや全人間を萬國に一度に出つる樣に萬億のアダムと萬億のエワを一時に御造りあそはさる事も御自由で御座いますか、然るに神樣は僅か一人のアダムを御造りあそはされ、其上にアダムか一人故自分の樣の者を欲しいと云ふ念の起るを御待あそはされて、そして其アダムの一體中よりエワを御造りあそはされて、夫から生育すべき法を御定めあそはされたので、實に一の血より、悉くの全人間を御造りあそはされたのて御座います、私共此に神樣の深き御思召のある事を覺えませう、其深き御思召は皆私共の幸福の愈々、益々多くなる事と喜も樂しみも盛大に完全になる事を御喜あそはさるのて御座います、此は全人間か永遠に一家族として萬福の中に居る時の至大なる喜と樂との源で御座いました、然るに罪かアダムを擄にして、死かアダムの族たる萬民の王となりましてより、人々か悉く散亂分離する樣になつたのて甚たしきは神靈と身體とを分ける計りてなく、神靈は萬福の神樣に離れて、惡鬼に近くなり、身體は物體の生命の法より離れし計りてなく腐敗する樣になる一の神靈の中にさへも、二心ある人となり、一の舌をも二枚に用ふる人ともなり、良心の欲する所を言はす、又行はざる人ともなり、智識の行より肉慾に從ふ人ともなり、父子の間にも、一體なる夫婦の間にも、兄弟姉妹朋友の中にも、悉く、一種の魔物か陰かに深く這いりこんで一つも全き喜、全き樂しみ、全き福、全き生命かない樣に致されました、實

に惜しいかな、萬世萬民の至大なる幸福の大源を傷められたのて御座います、併し段々御咄し申上た通り、全能の神様の御目的を何者も此を破る事か出來んのて、愈々、益々神様の御光榮か顯はる計りて御座います、其尤も明かなる事は、全能仁慈の神様で居らつしやる主イ、ス、ハリストスは昔し第一のアタムに御與へあそはされて以て、傷みし人性の至大革新を斷行も云れん程尊き天國を此の地上に御開設あそはされたる地堂より、幾層倍となされたる事に於て顯れてありませう、此に於てアタムの天性を、素より其天性は神様の御造物たる實體である故に、此を永存し給ふ御聖旨は、神様は永遠不變でゐらつしやるが、然るにです、此に深く注意して神様の御深意の至聖と、至愛と、至妙を思ひませう㊀拙者か先きに御咄申上た通り、人間と惡魔と合意して此の尊き天性なる實體に深く惡魔の不法の毒質をしみ込ませましたる事は、さも放蕩の男子か淫婦の梅毒に感染して骨も肉も臭氣紛々となりて倒れる樣に、私共の天性に惡魔の意念か深く混交して却りて純正の天性かなくなつたかと思ふ程になつたのて、或聖人は「彼等は靈魂の天に屬する了解を壓し潰して此れを忘れしめたり故に彼等は敵（惡魔の事）のをのれに何をなしゝを知らすして却りて最初より此の如き者と思へり」と御示ある通りて又聖書に彼等は「望を有たす世にありて神なき者なりき」（エフエス書二章十二節）と御明示ある樣になりましたか㊁然れ共私共萬世萬民の衷心に毫も欺かざる所の強き確實の歎願は、聖德も、光榮も、完備して立派なる人となりて、永遠の萬福を受けたいと云ふ事にあるのは、火か自然に物を燒く性質である樣に、人性至大、至強の自然性自然力である事は、御了解と思はれます㊂そして此の人性の至大至強の能力は此を御造りあそはされたる神様のみ、其如何なる程度で如何なる量數であるかを御明識ある事も已に御了解で御座いませう、又凡ての父母が子供の幸福を願ふ事は子供自身よりもはるかに深く大である事は何人も御了解で御座いませうさらばまして永遠より無限、無量の御聖旨を以て御造りあそはされたる人間か、立派になる事、光榮なる萬福になる事を神様か御思召事は、如何に神聖で如何に深妙で如何に奥義であるか、其御宏仁の至大なる事は、とても〳〵私共に悟りきれるべきでは御座いません事も、已に御了解の御事と思れます、そこて此の御聖體の機密に於きまして、特に此の神聖なる尊き御聖旨か私共の智識と良心とに輝くのて御座います○それは神様は地より御造りあそはされたるアタムに、御自分の氣なる神靈を御與へあそはされて、萬物の王となされ、此の一人のアタムを以て同一のアタムを幾億萬も御造りあそはされましたか、今度は、無生の土でなく自由の意旨を以て已に五千年間煅練したる神母の胎中で人性に、御自分と御同榮、御同權て居らつしやる獨生子たる御神性を御與へありて、以て二性を神様の獨一子たる一位に結合なされて、此を第二のアタム、又は天のアタムとなされたのて御座いますか、其第二のアタムなる主イ、ス、ハリストスの完備たる至聖の性を、かの洗禮の機密を以て新造なされたる人性に、

御聖體の機密を以て御與へあそはされて、實に天に屬する永遠の無數のアタムを化聖し給ふのて御座います、地のアタムの屬は地を嗣くか如くに、こんとは、天のアタムの聖性に同化したる無數のアタムを御自分と共に永遠に光榮の天國を嗣かしめ給はんとして、御自分の御聖體と、御聖血とを御分與あつたのて御座います、諸君よ、此の奥深き御聖旨、此の神聖なる光妙の眞理と、至潔なる御聖愛は私共か衷心より眞理の光を尋ね、道德の甘味を喜ひ、人間の人間たる光榮の萬福を永遠に受けんとする時には、明かに心に入るへき者で御座います、諸君よ、先きに地堂にアタムか居りし時に、惡魔の誘惑に依りて神樣か生命を御施しあそはさる所の御禁誡を犯して、全人間か禍と死とに陷いりし事實は、私共は自分々々明證しつゝある事は、最早御了解でありませう、然らば今や神樣の獨一子たる主イエススハリストスか十字架上の血を以てアタムの地堂に優る事さも天の地より大なる樣である天國を御開設ありて、此に御制定ある至尊、至光、至厳、至愛の御聖體機密にて、御自分と御同質に御公撰の萬民を御同化あそはさる事は、素より神樣の御喜ひあそはさる所て御座いませう、先きに地堂で一つの御禁果を食して惡神の逆意と同道して、活る萬々のアタムをも死せし事を常に實驗しつゝある私共は、御洗禮の機密を以て教會に新たに生れて、全能、仁慈の活る御言を以て、御聖神の大能を以て、御聖體御聖血となりし此のパン此の葡萄酒を、深き信と、清き愛と、神樣を畏るゝ全心の畏を以て領食する時には、天の寶座に在す主イエススハリストスに同化して永生を得へき者となるの御制定は唯深く感謝すべきで御座いませんか、主イエススハリストスか、私共を此の樣に光榮と、萬福に御招きあそはさるより、我か體を食ひ、我か血を飲め、我か體を食へ、我か血を飲む者は、我に居ると仰せあつたのて御座います、素より至聖、至大至妙なる實體の眞意なき者は恩寵教會にあるべき筈も御座いません、已に影なる禮義や、地に屬せし外儀か全廢せられたる時に全能の神樣はなとて虚儀なとを立て給ふべきやで御座います、故に又此の御聖體を領けんとする人々か、如何に謹まなければならん事であるやも明白で御座いませう、若しや萬一にも、其確かなる信と清き愛と、畏れとなくて、此を領くるならば實に恐るへきことで御座います、それ故深き謹みと、厚き愛とを以て、此の最も尊き機密に就くべきて御座います

コリンプ前書十一章にも尤も精しく御示かあります、そうして此の聖體の機密は屢々領食する事か出來るのて御座いますか、凡て正教會か教へ命する心情を支度しなければならんのて御座います

○第四に神品機密と申して、主教と、司祭と、補祭との神職に就く時の神聖なる大禮かあるのて御座います、主教職は第一上級で其次きに司祭職で御座います、此の主教と司祭とを助けて御神禮を行ふ時に務むるのか補祭て御座います、主教は聖使徒方の直く其後任で凡ての機密を行ふ權か御座います、司祭は凡て主教の命令に從ひまして、此の神品機密の

外の六つの機密を行ふ事か出來るのて御座います、そして此の三の聖職は、正教會の信男か衆人の撰擧と主教の許を受けて此の聖職に就くのて御座います、尤も此の神職に就く人々は其信仰は勿論の事、其品德も凡て聖書と正教會の御定制とに依りて定まつてあるのて御座います、主教は其御聖規通りに此れを定むるのて御座います、此の聖機密を受けし人々は神樣の御聖神の御寵佑に依りまして、其聖職を行ふ者で此の三つの神職を以て、神樣は、此の一、聖、公、使徒の教會に御確定ある整然たる秩序を以て信者を御導きあそはさるのて御座います、國家も無秩序は亡國に近い者て御座いませう、況んや神樣の尊き光榮の御國には勿論神聖で立派なる秩序あるべきで御座いませう主イヽスヽハリストスは御自分の教會に、此の主教、司祭、と補祭との三職を御立てあそはされ此を以て凡ての信者を成聖し給ふのて御座います、又は萬世の萬民に福音の眞を誤らぬ樣に傳ふる事をなされたのて御座います

○第五には痛悔の機密て御座いまして、此は御洗禮を受けし後ち又罪に陷りましたならば、其罪を深く痛悔して此の痛悔の機密を受けて、又一切新たになるのて御座います、此を重洗禮とも名つくるのて御座います、御洗禮を受け、御聖神の御恩を受け御聖體を領けましても、罪を犯す事の出來る自由かなくなるのて御座いません、神樣の御聖恩は人の自由を強制なさるのて御座いません、夫故此の地上の教會は、戰ひの教會とも名つくるのて、惡魔と戰はんけれはならんのて御座います、先きに皆惡魔の捕虜てあつたる者か、惡魔を足下に踐み倒さんとする故惡魔も亦力を盡して眞正なる信者を倒さんと働くのて御座います、故に私共か不注意の時に、怠りの時に、智識の眠つた時に、再度惡魔に誘惑せられまして罪に陷る事は屢々あるのて御座います、素より神樣は御公義でわらつしやるから、何に人でも罪に陷つた時には御公義を以て罰し給ふのて御座います、又如何なる義人でも罪に陷るの危きかない者か御座いません、又如何なる極惡大罪の人でも眞に痛悔する時には赦されさる者もないのて御座います、或る聖人か痛悔せずして赦さるヽ罪かない、又痛悔して赦されさる罪もないと仰せありました、實に此の痛悔の機密を、主イヽスヽハリストスか教會に御確定あそはされたる事は、惡魔の陰謀を粉齏になさるか爲めで御座います、特に私共はなか〳〵異教の中に居りたる者で良心の弱きと信仰の薄き爲めに、惡魔か陰かに智識と心情に再度くヽりこまんとするのて御座いますか、若しや此の痛悔の機密を正當に受けましたならは、俄ち惡魔の惡謀か破るヽのて御座います、或る聖人か人は生れて直くに成人になるかと云はれて以て、正教會か教ふる所の神聖なる、光れる道德はさう容易に直く得らるヽ者てなく、人間のあらんかきりの勉勵も、功勞も必要なものてある事を御示なさいました、若しや人間の働きかなくて聖德にならるヽならは、夫は其聖德は神樣の聖德で人は唯器械に過きん故に其聖德に應ずる幸福も褒賞も必要かなくなる者で御座います、實に

洗禮は教會に生れた斗りて御座いまして、此より神樣に克く肖たる所の溫柔、謙遜、聖潔平和、友愛等の道德を修めなければはならんのて御座います、そして此の神聖なる道德を修むるには、其人々の力に應して各々勉勵せんければはならんのて御座います、勿論國法や普通の倫理等は申すに及はす、人間の五倫なとは、今日迄の教育よりも深く高尚に修めなければはならんのて御座います、そして福音の眞を萬端に顯はして、天の父神の御榮を顯さなければならんのて御座います、夫か爲めに惡魔と惡風や、惡習慣と惡慾の人々や、不信又は疑惑や、凡て有形と無形との惡敵と戰はなければはならんのて御座います、其戰爭に負傷を受けし事は、罪なり過なりて御座います、其負傷を全く癒するのは此の痛悔の機密て御座います、私共は議論よりも眞實明白の證は教會歷史にも、今にも痛悔機密を正當に受けまして敬虔になつた人を見出事か出來んので御座います、此は甚たやさしき道理で御座います、私共は戰の時に敵の間者を陰す者や、又は傳染病を陰す者は、國家と衛生との敵てある事は明かてあると解る以上には、罪や過を教會の牧師に陰すものは、唯眞理の敵なる惡魔を喜はせて自分か魔鬼の捕虜となる斗りてせう、私共は身體の病を悉くかくさすして醫師に示して、此を癒す事も知りて居るならは神靈の病なる罪過を、司祭に告白して神樣の御赦を得る事は如何に喜ばしき極みて御座いませう、此に依りて主イエスハリストスは福音に見える通り「爾等人に其罪を釋さは則釋さる人に其罪を留めは則ち留めらる」（ヨハネ福音二十ノ二十三）と仰られ、聖使徒方は、此の權を主教方に、司祭方に御與へあつたので御座います、此れ教會の大權能か罪を赦し、又は釋かんのてす、さも國家の大權か裁判官にて執行せらるゝに似て居ります、或は獨りて神樣に申上くる方は却りて明かてある、どうしても人の前には云はれん事かあるなと云ふて此の神聖なる機密を彼れ此れ申す方もありますか、それはよく考ふたならば、それこそ全く已れを欺き晴ます事で唯罪惡を盛んにする助になる斗りて御座います、人に罪を云はれんか神樣に云はれると云ふ人々は未た神樣を知らんのてす、此の如き人々は神樣の御公義も何も解らんのて、神樣を我れ〳〵と同情の人々よりも恐れんのて御座います、此の樣の事を云ふ方々は、神樣の御公義は如何に恐るへきてあるか更らに解らんて御座います、若しや私共は自分の過を親しき兄弟に云はれんか、威儀堂々たる帝王の前には明らかに云はれると申したならは、誰か此の人の話を誠と申者か御座いませうか、自分の罪を司祭の前には云はれんか、神樣の前には直くに云はるゝと申のは全く惡魔の詐謀に暗まされて空氣に向ふてむだ言を申のて、神樣に申上るのては御座いません、此の如き人々は、主イエスハリストスの十字架の御苦難の眞義も、神樣の恐るべき事をも更らに解らんのて御座います、神樣は已に公審判なる一日を御定めありて、萬民の罪を定め給ふのて御座います、誰か此の公審判の日に、萬々の光れる天使の前に、自分の罪を告白する勇氣かありませうか、大聖も此を戰慄すと正教會は教へてある通りて御座いまし

て如何に恐るべきでせうか實に主イヽスヽハリストスは不可思議の愛を以て、私共御互の兄弟の中に其罪を告白して以て神様の御公義の前に赦さる至妙、至聖の良法を御立てあそはされたので御座います、勿論司祭の前にさへ告白すればそれで宜しいと云ふのではございませんが素より、あらざる所なき仁慈の父なる神様の尊前に自分の罪過は勿論己れの不完全を確かに認めて、日夜此を祈禱中に申上くべきは云ふ迄もなき事で御座いますが、此を赦すと云ふ權は、自分にはないので教會中如何なる人も自分で自分の罪を釋くと云ふ事は出來んので御座います、此は舊約にも新約にも教會歴史にも尤も精しくあるので彼の口々舊教の赦罪券の樣な者では御座いません、此の權は前にも申上たる通り教會に御與あつたので、其司祭方の德や不德なとには更らにかんけいかないので御座います、勿論聖德の牧師であれば、多くの神靈上の益を其時に與ふる事は明らかで御座いませうか、其の痛悔者の罪の赦しに至りては、其職權のある人であれば悉く同一で御座います、實に此の痛悔の至聖なる機密かなくんは、恐らくは救を得る人々が實に殆んとない樣になりませう、此の神聖至聖の痛悔機密は、幾度でも領けらるゝので御座います此も同しく正教會が教ふる通り、命する通り守らなければならんので御座います、一般の信者は毎年四度は此の機密を受くる樣にせんけれはならんので御座います尤も毎月でも毎週でも受けらるゝので屢々之を受くるは神靈の大益で御座います

⊙第六には婚配の機密と申して、教會の信男、信女か成長して愈々智能か開け備りまして年齢も血統も、教會法と國法とに從ふて又互に夫婦とならんとの決心と堅固なる望ある時に正教會は司祭を以て此の兩人に神樣の御降福を願ふので御座います、司祭か此の機密を行ふ時に見えすして全能の神樣は、丁度アタムにエワを御與へあそはされたる如くに、最も尊き御聖手を以て此の男女二人を一人となさるので御座います、正教會は一夫一婦て、一夫多妻や、一婦多夫の如きは斷して許さんので御座います、正教會は婚配機密を以て男女を夫婦と致して、斷して離婚を許さんので御座います、唯身の死と心情の死とも申すへき姦淫罪のある時には此を離れ去る事を夫にも婦にも許すので御座います、實に夫婦の大倫は頗ふる大切な事て、夫婦間の大倫か修まらんてありましたならは、一家の不幸、子女の不幸は申に及はす本人々々の不幸は如何に大てあるか知れんので御座います、夫故神樣は人間を大に深く御憐憫あそはされて、正教會にて此の亂を御直し下されて夫婦の神聖なる幸福と、子孫の幸福を全ふし給ふか爲めに婚配の聖機密を御立あそはされたので御座います、そこて正教會の法と國法とに合ふて、父母の喜を得て、互に自由の願に依りて、此の聖機密を受くる者は、アタムとエワか犯罪以前、地堂にありて互に快樂て居つた時よりも以上の者となりて、互に完全の愛と、敬とを全くして神樣の御光榮を顯はすへき者となり、善良の子女を生育する清き喜と樂しみを神樣より受くる者て、婚配は全く尊貴で神聖なる

者で御座います、素より夫婦の法は神聖て貴重てあるのて御座いますか、如何にせん人性の壞れと同時に、段々と恐るへき程汚れ、驚くへき程亂れたのて御座います、實に云ふも恥かしく恐ろしき程亂れました、私は四五年先きにある新聞で日本は世界一の離緣國てあると云ふ事を見ました、其證據に英國にては一萬の婚禮中に離婚は多くて十位てあるのに、日本にては一萬の婚體中に四千から離婚かあると記してありました、何んと驚くへき事て御座いませんか、併し此は我帝國は此樣に驚くへき薄情てあると斗りは思はんです、我が帝國には義士忠臣貞女賢母烈婦か澤山御座いまして、一般を見まする時には、敢て世界第一の薄情とは云はれんてあらうと思れます、此の如くに離婚の多き原因は特に㈠今日迄の宗教と道德の教方か俗に餘りに男尊女卑て御座いました、夫故此の樣の醜風を釀せし事と思はれます㈡此の婚儀に付きて父母親類の關渉の程度を破る事も一つの原因て御座いませう、素より青年の男女は未何も經驗なき故父母は其子女の爲めに適當なる嫁や聟を撰ふべきは至當の事で又子女は謹んて其父母の仰と命とに從ふへきも、亦當然て御座います、然れとも子女か欲せさるも之を强ゆるに至りては暴權と云はなけれはならんのて御座います、又は已に婚配せし者を父母か此れを離さんとする如きはどうしても道理上にも人情にも合はん事で況して神樣か合せ給ふたる者を人か別つへきて御座いません、㈢特に廣く行はるゝ風習は媒介者に一任して互に其心情も性質も知らんて婚配する醜風があるので、互に氣か合はんならは去るかよいと云ふ樣の事は、尤も此の離婚の多き原因て御座いませう㈣夫婦の大倫の眞意を知らずして肉情的情愛にのみ制せらるゝ事か多き故て御座いませう、兎に角亂れて居る事は實事て御座いますか、又實際田舍の良民の間に來りて見ると、中々聞門は立派てあるので御座います、併し其倫の正しき人々も不幸にして未た此の大倫の眞理を明かに知らん爲めに、自分々々の品行よりはるかに下等で劣惡で醜汚である者をさう驚かん事も又恐るべきて御座います、一般の良民は大々多數、一夫一婦て一家樂しんて居りまする、か、其人々も一夫多妻や醜業婦なとを疫病の如くコレラ病の如く癩病の如くには恐れんので御座います、正教會は此の大なる亂れを御聖神の御恩に依りて、人性を革新すると同時に此の神禮を以て此の法を成聖し給ふのてございます

第七は傳油機密と申して、聖書に明かに「爾等の中に病む者あらは教會の長老等を招くへし彼等主の名に依りて彼に油を傳けて彼の爲めに祈禱すべし信に由る祈禱は病める者を救ひ主は彼を起さん若し彼罪を行ひしならは赦されん」(イヤニフ公書五十四十五)と御示ある通りて、正教會の信男信女か、病にかゝりまして此の機密を領け度いと云ふ望か起りました時には、司祭方に願ふと司祭方か其病人の所に來りまして祈禱して油を傳ける聖禮で御座います、此の機密に依りて病を癒され、罪を赦さるゝので御座います、神樣は其人か世を逝るべきてあると御思召なさる時には、其人の神靈を神樣の御國に安然として行く樣に御佑けあるので

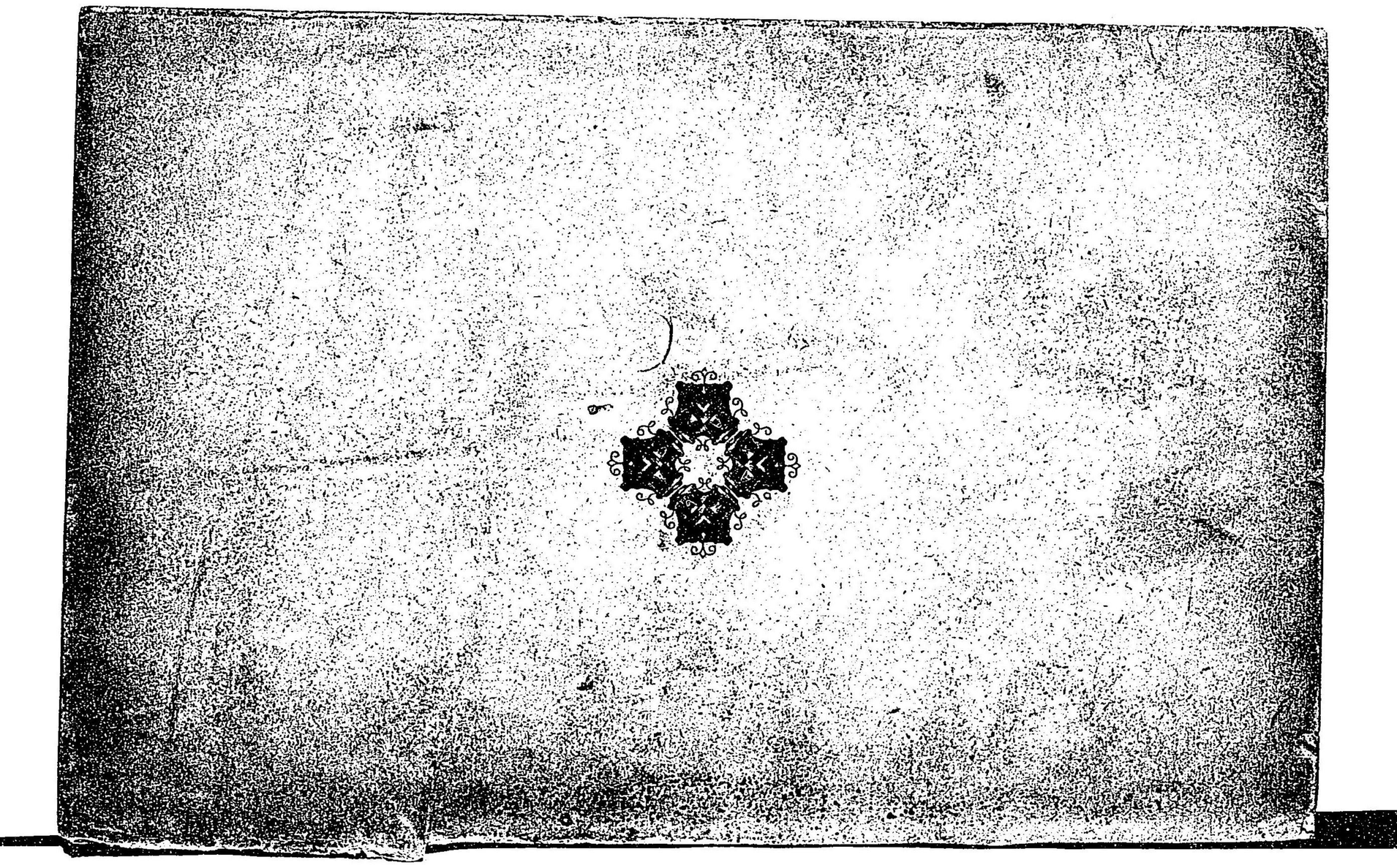
御座います㊀此の機密は必す凡ての病を癒すと云ふのでは御座いません、若しやそう云ふ機密かあれは此の身體に死もなくなるのて御座います、此の機密は神靈の罪と身體の病をとりて下さるのて御座いますが、其病か癒ゆると癒さるとは神様の御聖旨の儘になる事て御座います㊁正教會は無論醫師と藥とを用ゆる者で醫師の才能も藥品も神様の全能の御配はりてある事を堅く信して居りて、醫師の病人に命する事は神様の命と同様に守る事を命して居るのて御座います、醫師も病人に對しては神様の御使たる貴重の任命ある事を自ら信して、病人を癒す事を盡力すべきて御座います、併しなから全く療癒の源泉は、眞の神様てある事は云ふ迄てもなく明かなので御座います、故に醫師に依頼し藥を用て以て謹しんて神様に全快を願ふのて御座います、以上七ッの神聖なる機密は常に信者を成聖するか爲に、主イヽスヽハリストスは御自分の正教會に御制定あそばされたのて御座います、此の通り正教會には神様の御鴻恩を受くるか爲に一切備はらぬ者かないのて、信者の子女か生れますると直くに洗禮を行ふて、罪の汚れより清めて新たに天國の子となして正教會の信者となされ、そして御聖神の御能力を受け御聖體を受け主イヽスヽハリストスと密々體合し、また罪や過に陷りましたときには痛悔の機密をもつて新たになされ、段々成長して婚配の機密を以て子女を生育する權と力とを賜まはれ、病にかゝりまたは大病で世を逝るに近き時には傅油の機密を受けて、身體の病を癒され又は其病勢を殺滅する御働きを受け、愈々世を逝る時には其神靈を安然として天國に行かしめ給ふのて御座います、斯る眞理と成聖の御神恩を全ふして萬民か受くる爲特別に神品なる聖職を教會に御定めあそはされたのて御座います、以上八條に分けて八日間に御咄致した事は、正教會の信仰で御座います正教會の信仰の箇條は十二御座いますが、其十二の中に舊約新約にある事、正教會にて信して居る事の大切なる眞理は含みこもりてあるのて御座います、私か八日間御咄申上た事も此の十二の信經にある事で座います、私は先きに申上た通り私は私の信仰を述へたのて皆様か今日迄申上た事で、眞の神様は獨一で、三位で、天地萬有の成造者で、又神様の獨一の御子イヽスヽハリストスか、御神性と人性と二性か一位て居らして、萬世萬國の萬民の爲に十字架に御上りあそはされたる事より、御復活御昇天の事より世界の終りに萬々の天使と偕に再度聖光臨あそはされて、其時に萬世萬民か復活して御審判を受け、善惡の賞罰を明々白々に定むる事や、善人は主イヽスヽハリストスと偕に新天新地に於て永遠の萬福を受け、惡人は魔鬼と共に永遠の災苦を受くる事の眞理や、全人間中より神様は信と愛を全ふする萬民を御公撰ありて、其人々を成聖なさるか爲に御聖神か教會に御降臨ありて世の終りまて御働きあそはさる等の眞理を御了解になりて、天國の光榮の子女と御なりなさりたいとの御希望と御決心あらは、御洗禮を御受けありて正教會の信者と御なりなさる事を御支度あそはさる事を望みます、尚始めにハリストスの正教は、眞理と道德の二てあると

申ましたか、今日迄て御咄申上げたる事は眞理で御座います、道德の事は之より日と時とを期して申上けたいのです、併しなから度々申上げた通り、眞理と道德とは分れて別に立つべき者ては御座いません、たとへて申さは神靈と身體と云ふ樣の理で、眞理は道德と離れて居る者て御座いません、又は眞理は首て道德は體と申しても宜しう御座いませう、唯精しく解る爲めに眞理を眞理の箇條で解りやすくする斗りて御座います、たとへば肉體は又肉體の組織を調へて解り、神靈は神靈の才能を調へて解ると云ふ樣に便利の爲めに別々に御咄申上くるのて御座います、終りに一言申上ます今や我か帝國は世界的國家と顯れし時に我か同胞は永遠的人間として文明人と眞正の兄弟となる事こそ望みます願はくは全能の神樣の御佑けに依りまして皆樣と偕に永遠迄て兄弟となりて神樣の御國に御幸福を受ける事を切望いたします

明治四十二年四月廿七日印刷
明治四十二年四月三十日發行

著者兼發行者　新妻敬治　千葉縣印幡郡富里村字七榮八十五番地
印刷者　田中市之助　東京市神田區通新石町三番地
發行所　東陽堂　東京市神田區通新石町三番地
發賣所　中川藤四郎　東京銀座竹川町十五番地（電話新四七一二）

260
82



020873-000-2

特18-628

正教講話

新妻　敬治／著

M42

ABI-0706